

北海道北見北斗高等学校（管理機関：北海道教育委員会）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「北見北斗高校グローバルサイエンスプラン」の年次計画に従って、SSH事業の基礎づくりとしての地元大学との連携体制の構築、課題研究、その他関連した取組を実施し、おおむね研究計画が予定通り進捗している。
- ・SSHのねらいに沿って多様なプログラムを編成している。個々の取組について成果と課題の分析・検証をより客観的に行うことができるよう、引き続き評価手法の改良を重ねていくことが望まれる。また、必要に応じて取組の精選を行うことも考えられる。
- ・学校全体として研究計画を推進するため、より多くの教員が積極的に事業に関与することが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「G S I・II」については、生徒が課題研究に取り組む時間の確保が十分かどうか、探究が深まっているかどうか検証することが望まれる。
- ・「簡略型3段階ルーブリック」等を用いた評価手法を開発し、実践している。評価手法のメリット・デメリットを分析し、より一層改善していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究、セミナー、野外調査、シンポジウムの講師やアドバイザーとして大学・研究機関、民間企業、官公庁などの外部人材の協力を得ながら、研究のねらいに即したSSH事業を展開している。近隣の大学の大学院生をTAとして活用し、課題研究の指導の充実を図るなど、より一層の工夫に期待したい。
- ・理科、数学科、情報科、英語科の教員が中心となって課題研究の指導を行っている

が、今後は他教科の教員も含め、SSH事業への意識拡大や指導方法に関する共通理解を図っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・高大連携や民間企業の協力により、特色ある課題研究、野外調査等の探究的な学習活動を行っており、評価できる。
- ・サイエンスクラブの活性化を図るため、今後より一層多くの生徒がサイエンスクラブの活動に参加することが望まれる。また、教育課程とサイエンスクラブとの連携を図るなどして、生徒が課題研究を更に深めることのできる場を設けることも望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究に関する資料を校内ネットワークの共有フォルダに保存して、全教職員が利用できるようにしたり、アドバイザー会議の開催等により学校内で情報の共有化を図ったりしており、評価できる。教員の異動に対応できるような継承の仕組みを開発することも期待される。
- ・広く発信できるような成果を今後も引き続き蓄積していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教育委員会の指導主事及び北海道立教育研究所附属理科教育センターの職員がSSH指定校で校内研修や出張講義を実施、課題研究成果発表会で審査・講評を行う等、教員の課題研究の指導力の向上や指導体制の充実を図っており評価できる。今後とも学校の特色に応じた適切な支援、指導助言を行っていくことが望まれる。
- ・SSH指定校の実践例を活用した教員研修会の実施や「SSH実践事例集」の作成・公開等により、成果の普及・発信を図っており評価できる。

札幌市立札幌開成中等教育学校（管理機関：札幌市教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH委員会、MYP委員会、DP・IP委員会の3つの委員会を設置し、「課題探究的な学習」をキーワードとして各学年・各教科が有機的につながって、学校全体で研究開発の推進に取り組むことができている、評価できる。
- ・2期目の指定校として具体的な課題はないか、卒業生や在校生に対する様々なアンケート結果等について、より具体的に評価・分析・検討していくことが望まれる。
- ・部活動とは別に、同じ興味を持った仲間同士が集まる「放課後ユニット」を設置し、令和元年度は化学実験班・生物班・天文班・情報処理交流班の延べ120名程度の生徒が参加するなど異学年交流の場として機能させるとともに、コンテスト等での成果も表れ始めており評価できる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・物理・化学・生物・地学の4分野を学ぶことができるなど、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。多様な分野を学ぶことが生徒の興味関心を喚起することにつながる。
- ・国際バカロレアとの融合を図りながら、課題探究的な学習を推進しており評価できる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全ての教科の教員がSSH事業に関与する体制となっており評価できる。
- ・課題研究についてのワークショップを開催するなど、指導力向上のための取組を行っており評価できる。よりきめ細かな課題研究の指導を行っていくためには、教員の指導力向上の取組と併せて、外部人材やTAをより積極的に活用すること等も含め検討していくことが望まれる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・本校主催の研修会に小中学校教員が参加するなど、地域と連携した取組を行っており評価できる。
- ・英語の学校設定科目「CC」における課題研究と連携した取組や、ベトナム・タイ・台湾などアジアの学校との科学交流や課題研究の相互発表を積極的に行っており、評価できる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH中間発表会やポスター発表会、SSH研究成果報告会等を実施して、全校生徒が情報を共有し課題を継承している。研究成果の発信・普及に引き続き積極的に取り組んでいくことが望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・市立高校の中心校として、校舎新築時に6つの実験室と2つの研究室を整備したことに加え、ICT環境整備や少人数指導のための人事面での加配など、積極的に支援しており評価できる。
- ・本校での取組を基に、教育委員会として「教室で使えるレポート作成」「教室で使えるグループワーク」という小冊子を作成し市内の教員に配布したり、体験型探究活動指導法に係るワークショップを開催したりする等、研究成果を積極的に普及・発信しており評価できる。

札幌日本大学高等学校（管理機関：学校法人札幌日本大学学園）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・成果と課題の分析・検証を具体的なデータに基づいて行うことが望まれる。また、研究計画を進める中で発生した課題の解決を、具体的かつ組織的に行っていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を強く意識している教員が約25%に留まっている。課題研究で開発した指導法を他教科にも波及させ、各教科・科目において課題の解決に向けた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が推進されるよう、教員研修の実施など具体的に取り組んでいくことが望まれる。
- ・SSH事業の主対象が全生徒の十数パーセントに留まり、SSH主対象の生徒とそうでない生徒との交流の場も発表会等に限られている。より多くの生徒に取組を広げていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・研究開発課題を達成するためにも、地域や企業等の外部人材を引き続き積極的に活用していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・様々な国からの留学生を受け入れているほか、姉妹校との交流、「トビタテ留学JAPAN」や「さくらサイエンスプラン」の活用など、国際交流に積極的に取り組

んでおり評価できる。

- ・ 科学部を中心に様々なコンテスト等に参加し、成果をあげており評価できる。今後もより一層生徒の主体性を育むとともに、国際コンテストへの参加を積極的に目指すなど、活動の質を高めていくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ S S Hの取組を校内の日報やホームページに掲載したり、サイエンス・フェスティバルを開催したりするなど、研究成果の発信に積極的に取り組んでおり評価できる。現在開発中の教材や指導マニュアル等を含め、他校でも活用できる研究成果を分かりやすい形で公開し、積極的に普及していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 大学の附属校としての強みを生かし、管理職の人事面での配慮や、教員12名の授業時数を減らし課題研究や科学部の指導に注力できる体制を構築するなど、適切な支援を行っており評価できる。日本大学系列の学校のみならず、地域や道内の多くの高等学校に成果を普及していくことが望まれる。

立命館慶祥高等学校（管理機関：学校法人立命館）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・新しい校務分掌として「SSH推進機構」を設置することで、効果的に研究計画を推進・管理している。SSH推進機構以外の教員もより積極的に事業に参加し、学校全体として推進していくことが望まれる。
- ・現状はアンケートを中心とした評価方法となっているが、生徒の学習意欲や資質・能力の向上、生徒の変容等の分析をより客観的に行うための工夫が望まれる。「評価法研究ワーキンググループ」での今後の取組の成果が期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3年間を通して課題研究のカリキュラムを設定したことは評価できるが、特に1年次と2年次において課題研究に取り組む時間の確保が十分かどうか、探究が深まっているかどうか検証することが望まれる。また、3年次の「SS課題研究Ⅲ」を履修する生徒を更に増やしていくことが期待される。
- ・課題研究の評価については、評価法研究ワーキンググループを設置して、改善に取り組んでいるところであるが、今後の成果が期待される。
- ・通常の教科・科目においても課題研究の学びと連携した授業や主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業が行われており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の指導においては、大学や企業の研究者・技術者等の外部人材を積極的に活用しており評価できる。更に効果を上げていくためには、全校的な指導体制を整えることが必要である。多数の教員が積極的にイベント等の運営に参加する体制になってはいるが、指導の主体者となっている教員は限定的である状況を改善してい

くことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・シンガポール、タイ、インドネシア、中国の高校と年間を通して国際共同課題研究を実施しており、評価できる。プログラムに参加しなかった生徒へ成果を普及していくためのより一層工夫した取組も望まれる。
- ・科学オリンピックへの積極的な参加や、自然科学部の部員による学会発表などの取組も活発に行われており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の指導に当たる教員は、前年度経験している教員と初めて経験する教員とのチームティーチングにし、指導法の継承を図っている点は評価できる。
- ・学校ホームページを充実させたり、教員が指導法を論文にまとめて公表したりするなど、成果の普及・発信に努めており評価できる。今後は他校でも参考になる、課題研究等の教材や成果をまとめ、全国に公開していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・一貫教育部という部署を設け、各附属校と立命館大学各学部との接続教育における窓口となり、企画実施の調整や成果・課題の確認等を行っており、評価できる。
- ・1名の教員増員や事務職員の配置、必要に応じた予備費執行等、人事面・資金面から指定校を支援しており、評価できる。
- ・発表会や理数系教員研修会等を通じて、他校教員も含めて幅広く成果の普及を図っており、評価できる。所在地の異なる3校のSSH指定校を有する管理機関としてその特色を生かし、課題研究や探究活動に係る取組がより深化・発展するよう創意工夫した支援を行っていくことも期待される。

青森県立青森高等学校（管理機関：青森県教育委員会）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・各事業の企画は探究学習部及び理科の教員が中心になって行い、運営は学年、分掌、教科のバランスを取りながら適切に分担するなど、学校全体で事業を推進する体制が構築されていることは評価できる。
- ・各事業の振り返りシートの作成・活用は、PDCA サイクルを回していくために有効に機能するものであると思われる。引き続き改良を加えながら、効果的な活用が望まれる。
- ・事業の成果や課題の分析は、生徒の自己評価や活動の記録、保護者アンケート、教員の意識調査等を中心に行っており、概ね良好な結果が出ている。生徒の資質・能力の変容をより客観的に測定することができるよう、引き続き評価手法の改良を重ねていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究を中心に、理数系教育に重点を置いた系統的な教科・科目編成となっており評価できる。また、通常教科・科目の授業においても探究的な活動や課題研究と関連付けた内容等を積極的に取り入れ、理数系教育をより充実させるために理数系科目の単位数を増やしている点も評価できる。
- ・2年次の「SS探究」では、1単位で研究の基礎・基本の習得、実験観察の実践演習等を行い、残りの1単位で課題研究を進めている。実際に課題研究に取り組む時間の確保が十分かどうか、探究が深まっているかどうか検証することが望まれる。
- ・ルーブリック、振り返りシート、電子ポートフォリオ、提出レポートなどを用いて生徒の資質・能力の評価に積極的に取り組んでいる。また、多くの教材を開発し、教員間の共有が容易になるようにデータ化して整理している点も評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・各フィールドワークやセミナー等では、大学教員や研究所などの外部人材を積極的に活用しており、評価できる。
- ・年度当初に課題研究の指導に関する研修会を行っている。また、課題研究の指導については関係教員のティームティーチングで行い、担当者同士の学び合いや知識・技能の共有化を図っている。教員同士の連携を、生徒たちの課題研究の質の向上に更に繋げていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・国際性を高める取組については、海外研修とそれに伴う事前・事後学習の指導をしっかり行っており評価できる。
- ・自然科学部の生徒は年々増加し、研究発表や理数系コンテスト等にも積極的に参加しており、評価できる。今後もより高いレベルを目指して、引き続き努力することが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・指導に活用した資料や実験書、生徒のレポートやポスター等の成果物、記録用紙や評価用紙、アンケート用紙等は電子データとして蓄積し、常に全教員が利用できる状態にしている点は評価できる。
- ・県内の8市町村が合同で開催する「陸奥湾環境体験会」や青森市主催の「青森市環境フェア」において、自然科学部の生徒が講師として日頃の研究の成果を地域に還元するなどしており、評価できる。学校ホームページ等を通じて、開発した教材等を積極的に公開していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数系ALTの優先的配置や、県独自事業の研究指定校として資金面での支援を行っており、評価できる。
- ・「深い学び合同発表会」の開催や、「深い学び研究協議会研修会」における指定校の実践事例発表など、成果の普及に向けた取組を行っており評価できる。
- ・青森県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の充実に向け、青森高校での取組とその成果をどのように県全体に広げていくのか、戦略の更なる具体化が望まれる。

岩手県立釜石高等学校（管理機関：岩手県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH指定2期目となる今期から、理数科に加え普通科でも課題研究や探究活動に係る取組を開始するなど、おおむね予定通り進捗しており評価できる。
- ・年度毎に具体的な研究計画を明確に示し、目標実現に向けた進捗管理をしている。
- ・生徒の意識変容については1期目と比べて肯定的な回答が確実に増加している。引き続き成果と課題について、多面的な評価手法を用いた丁寧な分析・評価が求められ、OPPAを活用した分析手法の開発についても期待したい。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究サポート誌「探究の道標」や「SSHの手引き」など、生徒がゼミ活動を円滑に進めることができるよう、具体的な手段を開発しており評価できる。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、課題研究や探究的な学習とその他通常の教科・科目における学習を、より計画的かつ効果的に繋げていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全教員が協力してゼミ形式での課題研究の指導等を行っており、評価できる。
- ・校内研修の積極的な実施及び目的意識をもった先進校視察等が行われており、評価できる。先進的な理数系教育の実現に向け、外部人材の活用や教員の指導力向上のための取組について更なる工夫が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・香港の外部講師とオンラインミーティングで連携しながら課題研究を実施しているほか、企業へのフィールドワークを実施する等、大学や研究機関、企業等との連携や国際性を高める取組を実施しており評価できる。今後は個々の取組の有効性と課題を分析するとともに、現在の取組を更に発展させ、国際共同研究を実施していくことなどが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ゼミのメンター制度が、生徒間で探究活動のノウハウや成果を継承していくことを可能にし、効果的に機能しているように見受けられ、評価できる。
- ・学校ホームページだけでなく、フェイスブックやSSH通信等で活動内容を発信するなど、成果の普及に積極的に取り組んでおり評価できる。開発した様々な教材等は他校でも活用できるよう、分かりやすく公開していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理系のALTの配置や理科の常勤講師の加配、外部機関や県内5大学への協力依頼を行うなど、管理機関として適切な支援をしており評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の活性化に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

岩手県立水沢高等学校（管理機関：岩手県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・これまで理数科のみを対象としていた課題研究を普通科にも拡大して実施するなど、おおむね当初の計画通りに進捗しており、評価できる。
- ・現状の分析はアンケートが中心であるように見受けられる。4期目の学校として、より多面的、客観的な評価手法による取組成果の詳細な分析・評価が望まれる。
- ・教員アンケートにおいて肯定的な回答が減っていることや、課題として挙げられている教員の多忙感・負担感の解消に向け、具体的な改善策を検討・実施していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・運営指導委員会からの「課題研究の対象が広がり、先生方の力が分散したことで課題研究の質が低下し、単なる調べ学習が増えてしまっているのではないか」という指摘を受け止め、具体的な改善策を検証し、実行していくことが望まれる。
- ・実験・観察の一連の流れを効果的に学習できるようにまとめた自作テキスト、論文基礎の自作テキスト、水沢高校研究倫理規程等、特色ある教材開発に積極的に取り組んでおり評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・各学校設定科目の指導においては、様々な教科・科目の教員が連携して取り組んでおり、評価できる。
- ・課題研究を普通科の生徒も含め指導していく際には、教員の指導力向上が特に重要となってくるため、教員研修をより充実させ、効果的に実施することが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・震災復興や防災の観点からの研修、地域の小中学生を対象とした出前授業の実施等、地域と積極的に連携しており評価できる。
- ・国際性の育成については、例えば海外の高校と共同研究を実施したり、カリフォルニア工科大学での研修内容を更に高めたりする等の工夫が望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH指定4期までの長年に渡る研究成果と課題を、校内で具体的に継承していく体制が弱いように見受けられる。現在実施している毎週の会議に加え、更に意識した研究成果の共有・継承の仕組みを構築するなど、より一層注力することが望まれる。
- ・他校でも活用できる、より汎用性の高い教材等を開発し、積極的に発信していくといった取組も望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理系のALTの配置や理科の常勤講師・実習助手の加配、外部機関や県内5大学への協力依頼を行うなど、管理機関として適切な支援をしており評価できる。4期目の学校として、SSH事業が更に充実したものとなるよう、積極的に指導・助言を行っていくことが望まれる。

宮城県仙台第一高等学校（管理機関：宮城県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH研究部を校内分掌として設置し、SSH委員会、各教科会、各学年会等が有機的に連携・役割分担しながら、全校体制で研究開発に取り組んでいる点は評価できる。
- ・1年次に3回、2年次に4回、成果発表の機会を設け、その都度「学術研究自己評価ループリック」等を用いて評価を実施するなど、生徒が自らの成長を自覚できる仕組みの構築を目指しており評価できる。今後は自己評価の妥当性や信頼性についても検証・分析していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校設定教科「学術研究」を全ての教員が担当することにより、それぞれの教科の役割を再認識し、通常の教科・科目においても課題研究を意識した授業を実施している。また、ほぼ全ての教科・科目でアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を展開するなどしており、評価できる。理数系以外の教科・科目においても、より一層探究的な学習を推進していくことが望まれる。
- ・物理の授業を英語で実施した試みは評価できる。他の教科にも広げていくことが期待されるとともに、積極的に成果を全国に発信していくことが望まれる。
- ・「学術研究」のテキストや評価ループリック、実験を中心とした物理のテキストなど、独自教材等の開発を進めており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学術研究は生徒主体のゼミ形式で展開し、2年生全員が1年生の課題研究を指導する仕組みを取り入れるなど、工夫されている。

- ・卒業生である大学院生や大学生をT Aとして配置するなど、外部人材の活用を推進するための「仙台一高学術研究人材ネットワーク」の構築を試みており、成果が期待される。
- ・今後、課題研究で高いレベルに達した生徒を指導する上で、教員の更なる指導力向上に向けた校内研修等の充実や、外部人材の積極的な活用等を検討することが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・宮城県内、東北地区のSSH指定校と連携を図った取組を実施している。今後は、より日常的な連携を目指すとともに、連携の幅を広げていくことが望まれる。
- ・学校設定科目「学術研究Ⅱ」と「さくらサイエンスプラン」、「SSH台湾海外研修」を連動させるなど、国際性を高める取組を効果的に実施しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・各所での取組をデータベース化するなど、校内における情報共有の効率化を図っている点は評価できる。教員研修等も活用しなから、今後とも校内での連携を密にし組織的に成果の共有・継承に取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数系教員を1名増員したり、探究活動に実績のある教員や理数系のALTを配置したりするなど、人的支援が行われており評価できる。「探究活動等指導者養成講座」を新設するなど、教員研修にも積極的に取り組んでいる。
- ・指定校が今後検討したいと考えている「高大接続の研究」についても、管理機関としてより一層支援していくことが望まれる。

宮城県仙台第三高等学校（管理機関：宮城県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・校長直轄の部署として「SSH授業づくり研究センター」を設置し、センター内を複数のチームに分けることで多くの教員が事業に関わる体制の下、研究計画を推進しており、評価できる。
- ・宮城教育大学からの指導助言等を踏まえながら、複数の評価法を用いて成果と課題の分析・検証を積極的に行っており評価できる。今後は、学校として設定している15項目のスキル等の自己評価について、妥当性や信頼性の面から更に精度を高め改善していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・授業づくりプロジェクトの実施等、アクティブ・ラーニングの手法を用いた授業改善に組織的に取り組んでおり評価できる。今後は文系の生徒を対象とした課題研究の指導についても改善していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・東北大学グローバルラーニングセンターから大学院生（留学生）を招聘して、英文ポスターや発表について指導助言してもらい体制を整えるなど、外部人材を適切な場面で活用しており評価できる。今後も更なる工夫が望まれる。
- ・校内での教員研修等を積極的に行い、教員の指導力向上に取り組んでおり評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「ひらめきサイエンス」や「わくわくサイエンス」等の取組を通して、生徒が主体となった小中学校との連携事業を実施しており評価できる。今後はより多くの生徒が参加する取組にしていくことが望まれる。
- ・東北大学の大学院生をT Aとして招聘し、英語による発表の練習を行う語学力強化の取組や、電子会議システムを用いた台湾の高校生との交流及び国際共通課題研究の検討など、国際性を高める取組を積極的に実施しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・今後とも校内での連携を密にし組織的に成果の共有・継承に取り組んでいくことが望まれる。
- ・課題研究に関する指導書の作成や、本校教員が講師として課題研究や授業づくりの取組を他校に紹介するなど、研究成果の普及に積極的に取り組んでおり評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数系教員を1名増員したり、探究活動に実績のある教員や理数系のA L Tを配置したりするなど、人的支援が行われており評価できる。「探究活動等指導者養成講座」を新設するなど、教員研修にも積極的に取り組んでいる。
- ・指定校が今後の課題として挙げている「評価についての検討改善」「グローバルシチズンシップの育成」についても、管理機関としてより一層支援していくことが望まれる。

山形県立鶴岡南高等学校（管理機関：山形県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ループリックを用いた全教員による鶴南ゼミ発表会での評価や、生徒・教員の意識調査アンケートの実施、卒業生追跡調査等により成果と課題の分析・検証を行っている。今後も更に評価の客観性を高める工夫や、発表会以外の場面における評価の充実も望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数科の生徒が課題研究の質をより一層高めるための授業時間・指導体制を確保できているかどうか、検討することが望まれる。
- ・課題研究において、生徒が主体的にテーマを設定することができるよう、今後の指導法等について検討が望まれる。
- ・通常の数学や英語などの授業においてグループ学習やディスカッションを取り入れ探究活動を深化させる取組を行っており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・多岐に渡る探究テーマの指導に対応するため、外部人材の活用等についても更に積極的に進めることが期待される。その際、より効果的な指導となるよう、教員との連携体制や依頼方法、必要となる事前・事後学習などについても工夫が望まれる。
- ・SSH事業の成果と課題の分析をもとに、校内研修等の組織的な取組を計画的に実施していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・地域連携を意欲的に行っている点は評価できるが、理数系教育を推進するSSH事業の趣旨を踏まえた内容で実施していくことが望まれる。
- ・科学部の部員数はやや少ないように見受けられる一方、多くの学会やコンテスト、科学オリンピック等への積極的な参加が見られる。各種コンテスト等への参加を希望する生徒への支援の仕組みを更に強化していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全生徒・全職員に鶴南ゼミ（探究）要旨集や研究開発実施報告書を配布したり、2・3年生合同ゼミを開催したりするなど、学校内における成果の普及に取り組んでおり評価できる。今後は校内における成果の「継承」に資する取組も望まれる。
- ・探究活動等の様子を学校ホームページやSSH通信等で発信しており、評価できる。開発した教材等の積極的な公開も望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ICT環境整備や理科教育等設備整備費の増額配当、加配措置、山形大学との協力協定締結、「探究型学習課題研究発表会」の開催など、適切な支援を行っており評価できる。
- ・「SSH指定3校連絡協議会」の開催は、県内SSH指定校の成果と課題の共有及び交流の場となっており、評価できる。
- ・県の教育振興計画の中にSSH事業を位置付け、理系教員の育成や中高連携、高大連携カリキュラムの開発などにSSH指定校での取組や成果を積極的に活用しているとしており、評価できる。

山形県立東桜学館中学校・高等学校（管理機関：山形県教育委員会）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校務分掌として「研究課」を設け、中高教員が合同で成果や課題について協議する体制の下、改善を図りながら組織的に事業を推進しており評価できる。
- ・科学技術人材を育成するSSH事業の趣旨に鑑み、数学に関する課題研究テーマが少ないことや理工系への進学率がやや低いように見受けられる現状については引き続き分析し、改善していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究を軸として、科目融合型の学校設定科目「SS自然科学基礎」の設置等、理数系教育の教科・科目編成に工夫が見られ、評価できる。また、保健体育科、家庭科、地理歴史科、公民科など多くの教科で探究的な学習活動を行っており、評価できる。
- ・中高6年間を通じた探究的な教育プログラムが組み立てられており、成果が期待される。
- ・知識構成型ジグソー法やCLILの導入、公開授業研究会、授業改善シートによる振り返り等、授業改善に積極的に取り組んでおり評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校設定科目「SS総合探究ⅠⅡⅢ」においては、全教員がいずれかの担当者となり取り組むなど、全校的な指導体制となっており評価できる。
- ・外部機関との連携については、教員と外部講師の役割分担を明確にして実施しており、評価できる。今後はTAを積極的に有効活用することなども考えられる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・国際性を高める取組の更なる活性化を目指して、ユネスコスクール登録や海外校との姉妹校提携をSSH事業の深化に活用する方策等の検討も望まれる。
- ・自然科学部の部員がやや少ないように見受けられ、更なる活性化に向けた取組が望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・探究ゼミ担当者全員による打合せを毎月行うなど、学校内での成果や情報の共有化を図っており評価できる。
- ・地域の他の高校への探究活動に関する広報や地域の小中学校との連携等、成果の普及・発信をより充実させていくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ICT環境整備や理科教育等設備整備費の増額配当、加配措置、山形大学との協力協定締結、「探究型学習課題研究発表会」の開催など、適切な支援を行っており評価できる。
- ・「SSH指定3校連絡協議会」の開催は、県内SSH指定校の成果と課題の共有及び交流の場となっており、評価できる。
- ・県の教育振興計画の中にSSH事業を位置付け、理系教員の育成や中高連携、高大連携カリキュラムの開発などにSSH指定校での取組や成果を積極的に活用しているとしており、評価できる。

山形県立米沢興譲館高等学校（管理機関：山形県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH推進委員会、SSH企画部、SSH事務局が組織的に事業の進行管理を行い、全校体制で研究計画を着実に推進しており、評価できる。
- ・各種コンテスト等への参加者の増加や、推薦入試・AO入試合格者の増加が見られている。このような成果が出ている具体的要因や、どのような学習活動が効果的であったのか等について、分析・考察することが望まれる。
- ・運営指導委員会からのアドバイスを踏まえ、記録式の「異分野融合サイエンスワークブック」や「スーパーサイエンスリサーチ探究ノート」を作成するなど、具体的な改善策を講じており評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全ての生徒を対象に探究活動を実施していくための工夫として、様々な学問領域を融合させた学校設定科目「異分野融合サイエンス」や、第2学年全生徒対象の課題研究「スーパーサイエンスリサーチ」を設置するなど、理数系教育に重点を置いた教育課程編成となっており、評価できる。
- ・目指す生徒像と必要な資質・能力を整理し、科目ごとに作成したルーブリックを用いた評価、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価を実施するなど、学習活動の評価に積極的に取り組んでいる。
- ・課題研究を進めていく上で必要となる手法等を掲載した独自教材「異分野融合サイエンスワークブック」を作成し、1年生全員に配布している点は評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究の指導において各教員のもつ教育資源を教科横断的に活用し、生徒の興味関心に応じたきめ細かな指導を実現するため、「ESDエキスパート制」や「専門サポーター制度」を導入するなど、指導体制に工夫が認められ評価できる。
- ・大学や企業、科学関連機関等との連携を図るとともに、大学院生TAの活用も積極

的に行うなど、研究のねらいに即した指導体制となっており評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・山形大学工学部との「高大融合協定」により、大学の授業の受講や工学部の単位修得を可能とする連携を行っており大変評価できる。高大接続の改善に資する研究のより一層の深化に期待したい。
- ・理数系クラブである「コアSSクラブ」には10名以上の教員が顧問として関わり、生徒を積極的に支援する体制になっている。また、科学の甲子園や各種理数系コンテスト等に多くの生徒が参加するなど、充実した活動状況であり大変評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SSH事務局会」や「ESDエキスパートリーダー会議」等を通じて情報共有と引継ぎを行っており、評価できる。開発した教材やワークシート等の公開・普及についても積極的に実施していくことが望まれる。また、研究開発実施報告書については、もう少し記載内容を整理したり構造化したりするなどして、他校にも伝わりやすく参考になるよう工夫していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ICT環境整備や理科教育等設備整備費の増額配当、加配措置、山形大学との協力協定締結、「探究型学習課題研究発表会」の開催など、適切な支援を行っており評価できる。
- ・「SSH指定3校連絡協議会」の開催は、県内SSH指定校の成果と課題の共有及び交流の場となっており、評価できる。
- ・県の教育振興計画の中にSSH事業を位置付け、理系教員の育成や中高連携、高大連携カリキュラムの開発などにSSH指定校での取組や成果を積極的に活用しているとしており、評価できる。

福島県立福島高等学校（管理機関：福島県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校務分掌としてSSH部を配置し、SSH企画推進委員会で各部、学年、教科の代表が情報交換を行いながら組織的に研究を推進するなど、全校的な推進・管理体制となっており評価できる。
- ・2年次の課題研究に全教科の教員が関わるシステムが構築され、SSHの全ての企画等の詳細や成果についても全教員で情報共有されており、評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・探究科目の指導に関しては、大学、研究機関、企業の研究者との連携によって内容を高める努力をしており、評価できる。
- ・探究活動を柱として様々な教科で授業改善を進めており、通常授業においても課題研究や探究活動で学んだスキルを生かすことができるよう工夫している点は評価できる。
- ・課題研究等の評価については、現在のルーブリックを更に改善し分析を進めるとともに、他の評価手法等についても検討することが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全教員の専門分野・得意分野等をまとめた「Teacher's リスト」を作成して、それぞれの強みを生かした課題研究の指導体制を構築している点は評価できる。課題研究の指導体制の更なる充実に向けて、大学生や大学院生をTAとして活用するなどの工夫も望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・毎年夏に放射線防護ワークショップを開催し、フランス、フィリピン、台湾の高校

生や、他のSSH指定校等との交流を図っており、評価できる。

- ・スーパーサイエンス部の生徒135名が、各種理数系コンテストに積極的に参加するなど活発に活動しており、評価できる。また、授業と部活動を連動させて活性化を図る工夫がなされていることも評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全校で情報共有できる体制を構築しているほか、文書を整理し学年間の引き継ぎをしっかりと行って、反省を次年度の改善につなげている点は評価できる。
- ・学校ホームページで豊富に情報を公開しているほか、県内の研修会で事例発表を行うなど、積極的に成果を普及・発信しており評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSHの活動について、県のホームページ等でも積極的に情報発信しており評価できる。福島県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

茨城県立並木中等教育学校（管理機関：茨城県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 企画研究部及びSSH校内委員会を中心に、校内で情報を共有しつつ組織的に事業を推進・管理しており、評価できる。
- ・ 生徒の変容に関する評価は、アンケートを中心に行われている。今後は、在学6年間の生徒の変容等の分析をより客観的に行うための工夫が望まれる。
- ・ 学校設定科目「理数探究」の活動に関する達成感についてのアンケートに、約3割の生徒が肯定的に捉えていない回答を行っている。原因について分析を行い、改善していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 中等教育学校の利点を活かして前期課程から理数系教育に重点を置いた教育課程を編成している。また、探究的な学習やアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善が積極的に進められており、評価できる。
- ・ SSH成果発表会では、探究結果だけでなく、探究の過程でどういった壁にぶつかり、その壁をどのようにして乗り越えたのかといった「探究の道のり」についても発表するようにするなど、工夫した取組を行っており評価できる。
- ・ 「探究ノート」や独自のプリント教材等を開発しており評価できる。他校でも参考にできるよう積極的に公開し、外部からの意見等も踏まえながら、改良を重ねていくことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 全生徒が個人研究を行う「理数探究」については、全教員が27のゼミに分かれて生徒の指導に当たっている。全校的な指導体制を構築することで、個々の教員の高い意欲にもつながっているように見受けられ、評価できる。
- ・ ゼミ活動でのファシリテーション力を鍛える校内研修や、教員同士が自由に授業参観を行える「授業ちょっと見週間」の毎月の実施など、教員の指導力向上に向けた

取組を工夫して行っており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・「つくばサイエンスフロント」、「SSH講演会」、「SSH講座」、「SSHサイエンスカフェ」など、地域の大学や研究機関、企業等と連携した取組を積極的に行っており大変評価できる。「いばらきサイエンスコンソーシアム」による県内SSH指定校との意見交換や他校の研究発表会への参加など、他のSSH指定校と積極的に交流を図っている点についても評価できる。
- ・科学研究部の生徒は、科学研究作品展や科学オリンピック、科学の甲子園等に積極的に参加して優れた成果をあげており、大変評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・職員会議等で「理数探究」のゼミでの活動状況などについて情報共有を図り、新任教員に対するガイダンスも実施している。今後は校内における成果の「継承」に資する取組も更に工夫して行っていくことが期待される。
- ・授業公開、各地の講演会での校長による情報発信、他校からの視察の受け入れ、学校ホームページの充実など、様々な方法で成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。ゼミ活動の指導ノウハウや開発した教材等について、他校でも参考にできるよう積極的に公開・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・研究指導力の優れた理科・数学等の教員配置、常勤講師の加配、理系ALTの配置、県独自の事業を通じた財政支援等を行っており、評価できる。
- ・茨城県教育研修センターによる観察・実験研修講座の実施、茨城大学と連携した「未来の科学者育成プロジェクト事業」の推進等、教員の指導力向上に資する施策が進められており評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

茨城県立日立第一高等学校・附属中学校（管理機関：茨城県教育委員会）【3期3年目】
の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH推進委員会と、校務分掌である「サイエンス部」が核となり、事業を推進している。今後も特定の教科や教員に業務負担が集中しすぎないように留意しながら、学校全体で事業を推進していくことが望まれる。
- ・各種意識調査やルーブリックを用いた評価を通じて、生徒の学習意欲、資質・能力、進路状況等、様々な観点から各事業の成果と課題の分析・検証を行っており評価できる。今後は評価の客観性を更に高めていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校設定教科「白聖サイエンス」の下に6科目11単位の系統的な学校設定科目を置いて課題研究を推進している。理数系教育に重点を置いた体系的な教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・1年生全員が履修する「白聖研究Ⅰ」では、全ての教員が探究の基礎的スキルを指導できるように教員向けの指導案を作成したり、生徒が主体的に探究活動できるように「活動マニュアル」を作成したりするなど、課題研究の充実に資する教材開発に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・附属中学校からの進学生を他の生徒の指導役と位置付けるだけでなく、それら生徒の能力と意欲を更に伸ばせるような取組の工夫が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「白聖研究Ⅱ」では、茨城大学工学部の大学院生をチューターとして配置し、生徒の科学的思考力やディスカッション能力の向上を図るなどの工夫が見られ、評価できる。

- ・SSHに関する科目の授業は常に校内で公開し、教員が校内LANから「白聖研究 I」の指導案等を取り出して自由に見学することができるようになっている点などは評価できる。今後も更に工夫して、組織的に教員の指導力向上を図る取組を行っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・横浜国立大学と連携した「数学力育成講座」や「数学選手権大会」の開催、茨城大学工学部と連携した「白聖科学セミナー」や「研究室インターンシップ」の実施等、生徒が先進的な理数系教育を受けることができる機会を提供しており、評価できる。
- ・大学入学後に必要な知識・能力等について茨城大学工学部と共同で検証するなど、高大接続の改善に資する研究を実施しており評価できる。今後の成果に期待したい。
- ・地域の企業へのインターンシップ、小中学生を対象にした自然科学講座や実験指導、「茨城県高校生科学研究発表会」や「いばらきサイエンスコンソーシアム」による県内SSH指定校との連携など、地域の小中学校や他のSSH指定校等と積極的に連携しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全校体制で行うSSH成果発表会の開催、SSH通信の発行、学校ホームページでのSSH活動に関する情報発信、様々な科学研究発表会への出展など、積極的に研究成果を普及・発信しており評価できる。今後は開発した多様な教材や指導案等を他校にも分かりやすく公開・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・研究指導力の優れた理科・数学等の教員配置、常勤講師の加配、理系ALTの配置、県独自の事業を通じた財政支援等を行っており、評価できる。
- ・茨城県教育研修センターによる観察・実験研修講座の実施、茨城大学と連携した「未来の科学者育成プロジェクト事業」の推進等、教員の指導力向上に資する施策が進められており評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

清真学園高等学校・中学校（管理機関：学校法人清真学園）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・自ら問いを発見し探究する生徒を育成するための教育実践など、研究計画で設定した目的や目標に合わせた取組がまだ十分なレベルで行われているとは言えない部分もあるため、実行すべき事柄を明確に示しつつ期間を区切って達成できたかどうか確認する等、組織的に進捗管理をしながら着実に取り組んでいくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・生徒の自由な発想や課題意識に寄り添って課題設定や仮説を立てさせることが出来ているか、検証することが望まれる。
- ・生徒が主体的に問いを発見し、課題研究を深めていくための十分な時間が確保できているかどうか、検証することが望まれる。
- ・学校設定教科「探究」と他の教科・科目との学習上のつながりを整理していくことが望まれる。
- ・プレ・ポストアンケートや、ループリックを用いた評価や面談の実施、eポートフォリオの活用等、多様な評価手法を用いた実践に積極的に取り組んでおり評価できる。今後は、育成したい生徒像を明確にし、そこに向けて生徒が変容しているかといった検証という観点からも評価を機能させていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究のゼミの時間における全校的な指導体制や、チームティーチング、外部指導者と連携した指導体制が組み立てられており、評価できる。
- ・教員研修会や教育学者からの講義などを通して、指導力の向上を図っている。先進校の視察後、自校の事業改善に向けて何が必要か教員間で議論することや、教員相

互で研修の質を高めていく取組も併せて実施するなど、教員の指導力向上に向けて今後も組織的に取り組んでいくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・大学や研究室との連携を図っている。高大接続の改善に資する研究開発を行っていくことも期待される。
- ・自然科学部と天文部の生徒が科学オリンピックに参加するなど活発に活動しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・研究部やSSH推進委員会等を中心に、週1回程度連絡会議を開催するなど、学校内での実践や研究成果の共有に努めており評価できる。
- ・引き続き成果を蓄積し、外部に向けて発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・必要な教員・ALTの確保、ICT設備導入、教員の研修会参加等に関する支援を行っており評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

茗溪学園中学校高等学校（管理機関：学校法人茗溪学園）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・中高一貫した取組として研究計画が順調に進捗しており、評価できる。
- ・新しい学校設定科目の開設や、研究の進め方や論文を執筆する際の留意点、学問的誠実性等についてまとめ、生徒が個人課題研究を適切に進めるための教材「個人課題研究の手引き」を毎年改訂する等、成果と課題の分析、その反映を適切に行っており評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・中学校の3学年を含め、理数系教育に重点を置いた体系的な教科・科目編成となっており、大変評価できる。また、個人課題研究のテーマ設定に余裕をもって丁寧に取り組むようにするなど、実践の中で修正を図りながら適切に実施している。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、課題研究と他の教科・科目との連携を図っており、大変評価できる。また、「深い思考につながるクロスカリキュラム」の教材開発と実践を行っていることも評価でき、成果として発信することが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・高校2年次の「個人課題研究」の指導や、課題研究の発表会の運営、夏と冬の長期休み期間中に科学講演会や課題研究に関わる活動等を行う学校行事「スタディゾーン」を全教員が担当する等、全校的な指導体制となっており評価できる。
- ・教員が講師となっていく課題研究の指導についての研修会や外部視察等、教員の指導力を向上させる取組について、目的を明確にしながら適切に実施しており評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「さくらサイエンスプラン」「アジア高校生学術交流会」等の取組も利用しながら国際性を高める取組を積極的に行っており、評価できる。
- ・平成30年度時点で7つの班からなる科学部に150名の生徒が在籍する等、積極的に活動しており評価できる。科学オリンピック等にもより多くの生徒が積極的に参加していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全ての教員が課題研究の指導を担当することで、学校内における研究成果の共有・継承が適切に行われており、評価できる。
- ・成果の普及について、特に課題研究の効果的な実施とテーマ設定について何が重要かを整理して、他校でも使いやすい形で普及に努めることが望まれる。学校のホームページについても、開発した教材を掲載する等、より一層充実させていくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理科教員の増員等の人事面、ICTの設備面や予算面等で積極的に指定校を支援しており、評価できる。

栃木県立栃木高等学校（管理機関：栃木県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理数以外の教科の教員も構成メンバーとした「SSH部」を中心に、各学年や各分掌が連携して、改善を図りながら組織的に事業を推進しており評価できる。
- ・群馬大学と連携して、生徒の学習行動と成績の向上に関するペイジアンネットワークモデルを構築し、事業評価へ適用するなど、成果と課題の分析・検証に積極的に取り組んでおり、評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・生徒が設定した課題研究のテーマの中には、調べ学習的なものや科学的に検証・深化させていくことが難しいものも多く含まれているように見受けられる。SSHの趣旨を踏まえた、生徒による主体的なテーマ設定となるよう、改善していくことが望まれる。
- ・運営指導委員会から「2年生での課題研究の質をどう担保していくかが課題である」と示唆されている。特に理系の生徒にとって、課題研究を深めるための十分な時間や指導体制が確保できているか等も含めて検証し、改善策を実行していくことが望まれる。
- ・課題発見・解決に向けた授業事例集「プラスワンの試み」をまとめるなど、生徒の資質・能力の育成を通常の教科・科目の中でも実現させていくための取組を積極的に行っている。また、課題研究の指導をパッケージ化した教材の開発や、課題研究関連技能を習得させるための個々の教材の開発等に積極的に取り組むとともに、それらを他校への普及活動にも活用しており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全教員で課題研究を指導する体制を構築するとともに、外部人材の活用や上級生と

下級生が関わる仕組みを取り入れるなど、指導体制に工夫が見られ評価できる。生徒の課題設定の場面における教員のかかわり方や指導法について、更に工夫・改善していくことが望まれる。

- ・他校視察や研修会等への参加件数は2年間で127件にのぼり、校内でも相互授業参観を実施するなど、教員の指導力向上のための取組を積極的に行っており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSHクラブには9つの研究班があり、延べ82名が在籍している。各班1人の教員が顧問として手厚く指導し、学会等での発表のほか、コンテスト等への参加者も増加してきており評価できる。今後はより高いレベルの理数系コンテスト等にも積極的に挑戦していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究の指導をはじめ、全教員がSSH事業に関わる体制を構築することで、研究成果の共有・継承が適切に図られており、評価できる。
- ・課題研究の成果発表会は、校種を問わず他校からの参加者等も招き、広く公開した形で開催している。他校からの視察は全て受け入れ、課題研究関連技能に関する講座は外部に向けても公開するなど、成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・宇都宮大学と連携協定を締結して、SSH指定校に対する支援や協力を得られるようにしている。その他、教員の加配や県内SSH指定校情報交換会の実施、大学教員と高校教員が情報交換できる場の設定、教員研修等での情報発信等、積極的に指定校への支援と成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、今後も適切に学校を支援していくことが望まれる。

群馬県立桐生高等学校（管理機関：群馬県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH事業の対象生徒を普通科・理数科の全校生徒に拡大したため、新たに「資質・能力育成部」を設置し、全校体制の下で組織的に研究計画を推進しており評価できる。
- ・アンケートを中心に、成果と課題の分析・検証を定量的に行い、取組の成果が数値にも表れてきている点については評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・探究的な学習に必要な10項目の資質・能力を身に付けるために体系化したテキスト「学びの技法」が、生徒の目的意識の向上や探究プロセスの定着に有効に機能していると見受けられ、評価できる。
- ・課題研究の評価については、生徒がルーブリックを用いた自己評価を行い、自己評価の根拠や理由を含めて担当教員にプレゼンテーションすることで自己評価の妥当性や今後の活動指針を確認する機会を設けるなど、生徒の主体性を育むための工夫が見られ、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全ての教科・科目の教員が探究の指導に関わるなど、全校的な指導体制となっており、評価できる。また、大学や市役所等の外部人材の活用にも取り組んでいる。
- ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業についての研修や、探究活動に関する研修など、目的意識を明確にした校内研修を積極的に企画・実施して教員の指導力向上に努めており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・桐生市役所と連携して、地域の課題解決を探究する「桐生学」を実施するなど、特

色ある取組を行っており評価できる。

- ・「群大桐高科学教育検討会」を通じて、群馬大学理工学部と高大連携や高大接続の改善に資する協議等を継続的に行っていることについては評価できる。今後の更なる成果に期待したい。
- ・理数系クラブには41名の生徒が在籍しており、コンテストや外部の発表会等にも積極的に参加するなど活発に活動しており、評価できる。今後もより一層生徒の主体性を育むとともに、活動の質を高めていくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・毎週実施される「探究基礎Ⅰ」の学年会議において、オリジナルテキスト「学びの技法」の内容の読み合わせを行うなど、学校内における研究成果や情報の共有を図っており評価できる。
- ・「探究Ⅰ」の授業公開、SSH課題研究発表会の一般公開や他校教員を含めた情報交換会の実施、視察受け入れ、「学びの技法」の他校への配布等、成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり、評価できる。3期目の学校としてこれまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員1名の加配やSSHの取組に意欲的な教員の公募、「群馬県SSH等合同成果発表会」や「群馬県理科研究発表会」の開催、教育課程研究協議会での指定校による事例発表など、指定校への適切な支援や成果普及に関する取組を行っており評価できる。群馬県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

埼玉県立浦和第一女子高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH選択者が1年次80名から2、3年次は10名程度に大きく減少してしまう原因を分析し、改善することが望まれる。
- ・「探究学習部」を組織して教科・学年の連携を強化し、全校体制で事業を推進・管理している。また、時間割内に隔週で定例会を組み込み、担当者による連絡会は毎週行うことで取組状況や成果分析について共有を図っており、評価できる。
- ・「次のリーダーのための課題発見・解決プロジェクト」「次の科学者・技術者のための課題研究プロジェクト」における生徒の変容について、リーダーシップスキルや科学的解決能力等の様々な観点から分析・検証を行っている点は評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3年次まで全員が数学を、そして多くの生徒が理科を学ぶ教育課程となっている。SSH選択者の負担感にも配慮しつつ、生徒がより主体的かつ意欲的に課題研究を進めていくことができるよう、そのやり方や時間配分、指導体制等について引き続き工夫・改善を重ねていくことが望まれる。
- ・SSH選択者以外の特に理系の生徒に対する働きかけについても更に強化していくことが望まれる。
- ・「SS探究ⅠⅡ」における教科横断型の探究活動の実施、通常の教科・科目における探究的な学習過程の導入、協調学習の手法を用いた授業改善等に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・4期目の学校として、これまでの成果を全国の他の学校でも活用しやすいガイドブックや実験書等の形でまとめるなどして、整理・発信していくことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・SSH選択者対象プログラムでは、大学教員や研究者等の外部講師による講演会や講座が多数設定され、課題研究における指導・助言も受けており評価できる。
- ・探究学習部及び理科・数学の教員が分担して他校の視察を行い、指導方法の研修を行うなど教員の指導力向上のための取組を実施している。今後も他教科の教員を含め、組織的に工夫して取り組んでいくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・北関東6校の女子高校と連携してお茶の水女子大学と協定を締結し、高大接続教育を推進している点は評価できる。
- ・物理同好会、化学部、生物部、地学部、数学研究会において計64名の生徒が活発に活動しており、評価できる。理数系コンテスト等により積極的に参加していくなど今後の更なる活躍に期待したい。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・探究学習部や定例会等を通じて、事業の進捗状況や研究成果についての情報共有を図っている。今後は校内における成果の「継承」に資する取組も更に工夫して行っていくことが望まれる。また、4期目の学校としてこれまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH事業を活用して生徒個人の力量や学校の教育力を高めるとともに、学校間や小中高大・研究機関の連携及びネットワーク等を強化し、県全体の理数系教育を充実させることを戦略計画で位置付けており、評価できる。
- ・教員1名の加配、SSH指定校連絡協議会の実施、高校生によるサイエンスフェアや理科教育研究発表会を開催するなど、適切な支援を行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくことが望まれる。

埼玉県立川越女子高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH推進委員会、SSH総務に様々な教科の教員を配置することで、理数系教員のみならず学校全体で事業に取り組む体制を構築しており、評価できる。
- ・スペシャリストを育成することを掲げたSSG1クラスの生徒数が1学年10名程度に留まっている点については、検証が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・1、2学年の課題研究については、内容の更なる深化と質的向上が望まれる。
- ・生徒が課題研究に取り組む時間を十分確保することが望まれる。
- ・ゼネラリストとしての能力を観点としたルーブリックを作成し、課題研究の評価を行う際に活用しており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全教員が教科間連携とアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に取り組めるよう、新・転入教員向けにSSHに関するオリエンテーションを実施したり、他校視察やシンポジウムに参加したりするなど、教員の指導力向上を図っている点は評価できる。課題研究の指導力向上を図るための校内研修を実施する等、組織的な研修を更に積極的に行っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学での課題研究指導や研究室体験、出張講義など、大学や研究機関等と積極的に連携しており評価できる。

- ・SSH校等女子高7校交流事業で、お茶の水女子大学との高大接続教育を推進し、課題研究発表会と研究室体験を共催している点は評価できる。今後の更なる成果に期待したい。
- ・地域の小中学生を対象とした「高校生がおくる 冬休み科学教室」を他校と連携して開催し、地域の科学振興に寄与するとともに、生徒のプレゼンテーション力等を高めており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH成果発表会や授業相互見学等の取組を通じて、校内における研究成果の共有を図っている。今後は成果の「継承」に資する取組も更に工夫して行っていくことが望まれる。
- ・開発した課題研究のルーブリックを広く公開しており、評価できる。今後も研究成果の普及・発信により一層工夫して取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH事業を活用して生徒個人の力量や学校の教育力を高めるとともに、学校間や小中高大・研究機関の連携及びネットワーク等を強化し、県全体の理数系教育を充実させることを戦略計画で位置付けており、評価できる。
- ・教員1名の加配、SSH指定校連絡協議会の実施、高校生によるサイエンスフェアや理科教育研究発表会を開催するなど、適切な支援を行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくことが望まれる。

埼玉県立熊谷高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・意識調査、論理的思考力テスト、ルーブリックを用いた評価等、様々な方法を用いて成果と課題の分析・検証を試みている。引き続き分析と改善を進めていくことが望まれる。
- ・平成30年度実施のアンケートにおいて、SSH事業が「理系学部への進学に役立ったと感じた生徒」は29%、「大学進学後の志望分野探しに役立ったと感じた生徒」は40%、「将来の志望職種探しに役立ったと感じた生徒」は39%、「国際性の向上に役立ったと感じた生徒」は35%で、いずれも50%を下回っている現状について分析することが望まれる。また、教員の意識変容を分析するためのアンケート調査への回答数が全教員数に比べてかなり少なく、満足度の平均値も高くない点について分析・改善が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・1・2年次全員が多分野にわたる課題探究を行う「熊高ゼミ」を開講しており、37講座のゼミ形式で実施しているが、1年間で15回程度しか設定されておらず、課題研究に相応しくないテーマがいくつか見受けられる。SSHの趣旨を踏まえた、生徒による主体的なテーマ設定と課題研究の内容の更なる深化が望まれる。
- ・理科科目では、論理的思考力を育成するという観点から実験課題を設定して授業を行っており、評価できる。物理において独自の実験テキストを作成し活用している点も評価できる。
- ・2年次の英語、数学、国語については、20名程度の少人数クラスで授業展開している。アクティブ・ラーニングの手法を導入するなど、授業改善を図っており評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 1・2年次担当教員全員が各自のゼミを開講し、課題研究の指導に当たっている点は評価できる。
- ・ 先進校視察については、校数も視察者数も少ないように思われる。目的意識を明確にした上でより多くの視察を実施し、他校の優良事例から参考にできることを積極的に自校の取組に生かしていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 大学や研究機関への訪問・研修、外部機関の専門家を招いた研修など、多岐にわたる内容で大学等と積極的に連携しており、評価できる。全体的に参加生徒数が少ないように見受けられるため、生徒の意欲を引き出すための更なる工夫が望まれる。また、高大接続の改善に資する取組等についても実施していくことが期待される。
- ・ 地学オリンピックへの予選参加者数は著しい。今後は他の分野についても積極的に参加していくことが期待されるとともに、引き続き生徒が更なる高みを目指せるよう組織的な支援が望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 一般公開する熊高ゼミ・SSH研究成果発表会やSSH通信の発行、新転任者への熊ゼミレクチャー等を通じて、学校内における研究成果の共有を図っている点は評価できる。
- ・ これまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ SSH事業を活用して生徒個人の力量や学校の教育力を高めるとともに、学校間や小中高大・研究機関の連携及びネットワーク等を強化し、県全体の理数系教育を充実させることを戦略計画で位置付けており、評価できる。
- ・ 教員1名の加配、SSH指定校連絡協議会の実施、高校生によるサイエンスフェアや理科教育研究発表会を開催するなど、適切な支援を行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくことが望まれる。

埼玉県立不動岡高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH総務を核としたSSH推進委員会が組織的に事業を推進しており、評価できる。
- ・運営指導委員会からの指摘である、「①各事業の研究全体における位置づけが曖昧である」「②各事業の意義を十分に生徒が理解していない」については、重要な指摘であり、改善のための具体策が望まれる。課題研究を中心に各取組がどのように有機的につながって生徒の資質・能力を育成しているのか再整理し、教員・生徒の共通認識の下、事業を推進していくことが望まれる。
- ・学習状況調査、生徒・教員の意識調査、物理概念理解度調査、ジェネリックスキル調査など多岐に渡る調査・分析を行い、生徒の変容の測定や事業改善を図っていることは評価できる。これらの継続的調査・分析・評価の結果を相互に関連付け、事業の改善に一層活用していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究を中心に、3年間の一つ一つの取組を有機的につなげ、整理して実施していくことが望まれる。
- ・「SS 課題研究Ⅰ」「SS 課題研究Ⅱ」とともに30名程度の履修となっているが、課題研究に取り組む時間の確保が十分かどうか、探究が深まっているかどうか検証することが望まれる。
- ・一定の授業時間数をひとまとまりにした「ユニット授業」や、課外に実施する実験実習講座等の単位認定を行う「SS 不動岡アカデミー」など、特色ある取組が行われており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・理数教科と連携したユニットタイプの授業、外部講師とのチームティーチング、数学科での少人数授業など、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており評価できる。
- ・経験学習サイクルモデルに関する研修会を開催したり、全職員が参加する研修会を月に2回実施したりしている。教員の指導力向上のため、今後も更に工夫して組織的な取組を行っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・1年生全員が英語でのプレゼンテーションを行ったり、海外研修や姉妹校との交流など国際性を高める取組を積極的に行ったりしており評価できる。海外研修等に直接参加しない生徒にも成果を還元していくための取組を、工夫して行っていくことが望まれる。
- ・全校生徒の10%程度が「スーパーサイエンスクラブ」に参加し、理数系コンテストやイベント等に積極的に参加しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全生徒が参加する生徒研究発表会の開催や他校教員との研究協議、研究成果の校内展示、SSH研究開発実施報告書のホームページでの公開等により、学校内外で成果の普及を図っている。今後はこれまでの研究成果を他校でも活用できるような教材等の形にまとめ、指導法などと合わせて積極的に公開・情報発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH事業を活用して生徒個人の力量や学校の教育力を高めるとともに、学校間や小中高大・研究機関の連携及びネットワーク等を強化し、県全体の理数系教育を充実させることを戦略計画で位置付けており、評価できる。
- ・教員1名の加配、SSH指定校連絡協議会の実施、高校生によるサイエンスフェアや理科教育研究発表会を開催するなど、適切な支援を行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくことが望まれる。

埼玉県立松山高等学校（管理機関：埼玉県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全校組織であるSSH推進委員会やSSH総務を中心に、事業を計画的に推進しており評価できる。理数科における取組や成果を今後どのようにして全校に波及させていくか、検討することが望まれる。
- ・生徒の理数への興味関心は上昇傾向であるとはいえ、理系進路志望のわずかな減少や教員の積極的な意識が横ばいであることの原因についてより詳細に分析し、具体的に改善していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SS 科学探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「SS 数学探究Ⅰ・Ⅱ」を設置し、3年次には「SS 科学英語Ⅱ」と連携して英語による発表を実施する等、3年間を通して計画的に生徒の資質・能力の育成を図る教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・全体的に理数科の取組は充実しており評価できる。今後は通常の理科・数学や理科・数学以外の教科・科目においても探究的な学習過程を積極的に取り入れ、より一層の授業改善を図ることで、理数科以外の生徒も含め事業の効果を学校全体に波及させていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「課題研究指導者委員会」での情報交換や指導法の継承、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善に関する研修を行うなど、教員の指導力向上に向けた取組を実施しており、評価できる。
- ・理科の専門知識をもつ外国人講師の活用など、指導体制を工夫している。今後は教科融合型の授業やティームティーチング等についても、更に積極的に検討していく

ことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・市内小学生を対象とした親子理科教室や、中学生を対象とした理科実験教室の開催など、地域と連携した取組を積極的に行っており評価できる。これらの活動を通して、生徒がどのように変容したか分析・評価することも望まれる。
- ・海外研修や、大学や研究施設等の留学生も参加して英語での研究発表会を開催する等、国際性を高める取組を工夫して実施しており評価できる。生物部の研究が国際科学誌に投稿・掲載され国際的な評価を受けていることは、他の生徒にとっても大変刺激になる。今後は、科学英語に関する教材開発等も期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SS 科学探究 課題研究記録集」を作成し、過去の課題研究の成果を保存・蓄積して校内で共有している点は評価できる。今後はこれまでの研究成果を他校でも活用できるような教材等の形にまとめ、指導法などと合わせて積極的に公開・情報発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH事業を活用して生徒個人の力量や学校の教育力を高めるとともに、学校間や小中高大・研究機関の連携及びネットワーク等を強化し、県全体の理数系教育を充実させることを戦略計画で位置付けており、評価できる。
- ・教員1名の加配、SSH指定校連絡協議会の実施、高校生によるサイエンスフェアや理科教育研究発表会を開催するなど、適切な支援を行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくことが望まれる。

千葉市立千葉高等学校（管理機関：千葉市教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校務分掌に「SSH推進部」を設置し、SSH校内委員会（カリキュラム開発班、外部機関連携開発班、総務班）を中心に学校全体で研究計画を推進していく体制を構築しており、評価できる。
- ・独自の質問紙やアンケート、ループリック等を活用して、成果と課題の分析・検証を丁寧に行い、課題の解決に向けて取組の改善にもつなげていることは評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全ての教科の学習に科学的な視点を取り入れる「クロスカリキュラム」の取組を通じて、カリキュラム・マネジメントを実践し、教科の枠組みを越えた連携を図っている点については評価できる。また、通常の教科・科目においても探究的な学習過程を積極的に取り入れるなど、授業改善が着実に進んでおり評価できる。学校全体にこれらの成果が波及することで、今後、普通科SSHコースの生徒が更に増加していくことにも期待したい。
- ・独自のループリックを開発し、診断的評価、形成的評価、総括的評価の3段階で評価を行い、生徒へのフィードバックを試みるといった工夫が見られ、評価できる。引き続き改良を積み重ねて、評価手法を確立させていくことが期待される。
- ・課題研究指導の手引きの作成、クロスカリキュラムで開発した授業のデータベース化、海外研修危機管理マニュアルの作成などに積極的に取り組んでおり評価できる。今後は他校でも活用できるように広く公開し、改良を重ねていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の指導については、ティームティーチングを基本としながら、大学教員等の外部人材や外国人実習助手・ALTの活用も図るなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており評価できる。

- ・若手教員の課題研究の指導力向上を図ることを目的とした担当者間のミーティングや管理職による授業観察等を通じて、教員の指導力向上を図っており評価できる。定期的な授業公開と教員相互による授業参観や、目的を明確にした校内研修の実施など、より工夫した取組を組織的に実施していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・千葉大学工学部と高大接続事業に関する協定を締結するとともに、7大学との連携講座を実施するなど、先進的な理数系教育や高大接続の改善に資する取組を行っており評価できる。外部連携講座については、事前指導を充実させて学びをより深めることができるよう工夫している点も評価できる。
- ・市内の小中学生を対象とした実験講座や課題研究指導に関する研究会の実施など、地域と連携した取組を積極的に行っており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校ホームページとは別に独自の「SSHホームページ」を設け、頻繁に情報を掲載するなど、成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり評価できる。千葉都市モノレールの協力で、モノレールの車内に生徒の科学研究ポスターを展示したり、駅展示スペースでSSHの取組をPRしたりするなど、広報にも工夫して取り組んでいる。今後は特に普及させたい成果や内容を明確にするなどして整理し、他校にも分かりやすい形で全国に向けて発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・当該指定校を千葉市の科学教育拠点校として位置付け、県内の大学・研究施設や企業等との連携強化を図るため、C.C.S.N (Chiba City Science Networks) を構築するなど、積極的に支援しており評価できる。また、「千葉市クロススクールサイエンスフェスティバル」等を開催し、市内の小・中・高等学校の交流を活性化させている点についても評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、今後も適切に学校を支援していくことが望まれる。

筑波大学附属駒場高等学校（管理機関：国立大学法人筑波大学）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教科代表と校内プロジェクト長で構成する「SSH校内推進委員会」を組織するとともに、校内分掌である研究部が実務を担い、組織的にSSH事業を推進する体制となっていることは評価できる。
- ・各SSH事業の成果と課題の分析・検証については主に文章で述べられており、数値統計的な分析がなされていない。生徒の変容や教員の意識変化等についての定量的データを示し、分析していくことが望まれる。また、卒業生アンケートについては、回答数が少なく客観性に乏しいため、工夫改善が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・高校2・3年次で「理科課題研究」と学校設定科目「課題研究」を実施するとともに、通常の教科・科目においても積極的に探究的な学習活動を取り入れており、評価できる。これらの取組で培われた生徒の資質・能力を測定する統一的な評価手法の開発に取り組んでいくことが望まれる。
- ・数学科において積極的に多くの教材を開発・公開しており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・卒業生、大学等の外部人材を活用した指導体制となっていることは評価できる。今後も更なる工夫が望まれる。
- ・数学科教員研修会を全国規模で実施し、他校教員との意見交流や指導力向上に努めており評価できる。今後はこのような取組を他教科にも波及させていくことが期待される。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・台湾や韓国の高校と国際交流に積極的に努めており、評価できる。
- ・数学オリンピックや科学の甲子園等に積極的に参加して優れた成果をあげており、評価できる。数学オリンピックワークショップでは、卒業生のメダリストをTAとして招聘し、他校生徒の共同受講も受け入れて活性化を図っており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・校内研修会をワークショップ形式で開催し、学校全体で研究成果を共有し、活用する取組を実施しており評価できる。
- ・研究成果の継承と発展のための取組も検討することが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・筑波大学G F E S T（未来を創る科学技術人材育成プログラム）を通じて科学オリンピック出場を支援したり、小・中・高校生を対象にした科学コンクールを実施したりしており、評価できる。今後は附属学校の将来構想も見据えた上で、課題を見だし、より積極的な支援が望まれる。

東京学芸大学附属高等学校（管理機関：国立大学法人東京学芸大学）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ S U L E 委員会を中心に各部会等の役割分担を明確にして、学校全体で研究計画の推進に取り組んでおり、評価できる。
- ・ 志向調査、パフォーマンス評価、ループリックを用いた評価などを実践し、成果と課題の分析・検証を行っている。引き続き、客観的な指標や定量的なデータに基づいた分析・検証を進め、取組の改善に生かしていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 「発展 S S H 探究」の選択者が少ない原因を検証し、更に人数を増やしていくことが望まれる。
- ・ 課題研究以外の各教科・科目においてもカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた教科・科目間連携や探究的な学習過程を取り入れた授業が実施されているかどうか検証し、更に積極的に授業改善を推進していくことが望まれる。また、課題研究と通常の教科・科目とのつながりや連携もより一層意識していくことが望まれる。
- ・ 「探究活動ノート」や「探究活動実践事例集」などの教材を作成していることは評価できる。これらの教材は適宜改良を加えるとともに、広く一般に公開し他校でも参考にしてもらうことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 探究講座では、例えば統計の講座を数学の教員だけではなく、別の教科の教員も担当するなど、教科の枠を越えた取組が行われている。今後も教員間の横の連携を深め、指導体制の充実を図っていくことが望まれる。また、外部人材や T A の活用等について更に積極的に検討していくことが望まれる。

- ・互見授業や先進校視察を実施したり、全教員を対象とした統計、研究倫理、ICT 活用についての校内研修を実施したりするなど、教員の指導力向上に向けた取組を実施しており評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・東京学芸大学をはじめ多くの大学と連携し、特別授業を実施したり、探究活動についての指導助言や実験協力を得たりしており、評価できる。今後は高大連携から更に進んだ、高大接続の改善に資する取組等についても期待したい。
- ・タイ王国の学校との交流やサイエンスフェアへの参加、アジアの化学教育会議 N I C E への参加、海外からの生徒の訪問受け入れ、東京学芸大学の留学生を活用した英語の授業など、国際性を高める取組を積極的に行っており評価できる。今後は現在の取組を更に発展させ、国際共同研究を実施していくことなどが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・校内サーバーに指導案や教材、アンケート結果等の研究成果を蓄積し、校内で共有を図っている点は評価できる。
- ・生徒の探究活動の様子を授業実践研究会として公開したり、外部のセミナー等で探究活動の取組について発表したりするなど、研究成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。今後も様々な機会を通じて、これまでの研究成果や指導方法等に関する情報を他校に発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「東京学芸大学 S S H 合同推進委員会」を設置して、大学の理数系教員が高校教員とともに S S H 事業の実施や評価等について協議し、指導助言を行っている。また、大学教員がメンターとして探究活動の指導助言を行ったり、他校にも参加を呼びかけて「S S H/S G H 生徒課題研究発表会」を開催したりするなど、生徒の探究活動が活性化するよう支援しており、評価できる。
- ・今後は附属学校の将来構想も見据えた上で、課題を見だし、より積極的な支援が望まれる。

東京都立小石川中等教育学校（管理機関：東京都教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校務分掌としてSSH部を設置するとともにSSHプロジェクト委員会を組織し、教科の枠を越えて学校全体でSSH事業を推進しており、評価できる。
- ・生徒、教員、保護者に対するアンケート調査、ルーブリックを用いた生徒の自己評価、課題研究における教員による生徒評価と生徒の自己評価との比較分析など、成果と課題の分析・検証を様々な手法を用いて行い、抽出した課題を適切にフィードバックしており評価できる。
- ・卒業生の追跡調査については、更に工夫して積極的に行っていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・各学年で身に付けさせる資質・能力を明確に設定し、6年間を通して課題研究をどのように発展させていくかを構造化するなど、「小石川フィロソフィー」を中心に理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・課題研究の成果を生かして、積極的に外部の課題研究コンクールや学会発表等に参加するなどしており、評価できる。
- ・課題研究の取組をまとめるポートフォリオ「小石川ノート」の開発や、独自ルーブリックの作成と運用など、生徒の資質・能力についての評価手法の開発実践に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・課題研究のための言語スキル、数量スキル、論理的コミュニケーション能力の向上を目指して、国語や数学、英語といった各教科と連携した取組が行われている。今後もより多くの教科と積極的な連携を図り、課題研究と通常の教科・科目双方の授業を活性化させていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・数学科と他教科の教員が連携して、数学の視点から学びを深める授業を行ったり、外国人講師や大学教員、卒業生等の外部人材を積極的に活用したりするなど、工夫

した指導体制となっており評価できる。

- ・小石川フィロソフィー担当者会議を定期的で開催し、指導法や評価法、テーマ決めに関する情報交換等を通じて教員の指導力向上を図っており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・海外研修や海外修学旅行では、現地での課題研究発表や研究交流を行い、生徒の国際性を育てている。
- ・6つの理数系クラブに多くの生徒がバランスよく所属し、理数系コンテスト等に積極的に参加して成果をあげるなど活発に活動しており、評価できる。「オープンラボ」として放課後や長期休業期間中に全ての生徒に実験室を開放し、課題研究を更に深めたい生徒の支援を行っていることも評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「小石川フィロソフィー共通テキスト」と指導書を作成していることは、課題研究に関する指導のノウハウを校内で継承していく観点からも評価できる。
- ・学校ホームページが充実しており、他校の参考となるような具体的な事例が数多く掲載されており評価できる。今後も更に普及できる教材等の開発が望まれ、活用のプロセスとともに成果を公開していくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・都独自の理数に関する指定校の設定など、理数系教育の充実に意欲的であり評価できる。
- ・新学習指導要領の「理数探究基礎」「理数探究」を各学校が導入するために必要な校内組織体制の構築に向けて、都独自に理数アカデミー校及び理数リーディング校を指定して探究的な学習の指導を推進しており、今後その成果が期待される。

東京都立多摩科学技術高等学校（管理機関：東京都教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・アンケート等の結果が示唆する、学年進行に伴う生徒の意識の変化が顕著でない点や、専門教科と共通教科の教員の意識の違い、クロスカリキュラムの効果等については、今後の課題として分析・検証していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・1学年から3学年まで課題研究関連授業を13単位以上教育課程に位置付け、課題発見から課題解決、発表までを系統的に指導する等、SSHのねらいを踏まえた理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・カリキュラム・マネジメントの観点から、課題研究とその他の通常授業をいかに有機的につなげていくか、今後更なる検討が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・相互授業参観をクロスカリキュラムの視点で延べ120回程度実施するなど、教員の指導力向上や授業改善に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・理数以外の共通教科の教員の関わりや専門教科の教員との連携をより一層強化していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・小金井市や大学等と連携を図り、生徒に様々な学びの場や先進的な学習機会を提供しており評価できる。高大連携事業の今後のより一層の推進・発展に期待したい。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・校内サーバーの共有フォルダを活用して研究成果の共有・継承を図っており、今後も引き続き全教員が積極的に活用できるシステムに整えていくことが望まれる。
- ・開発したオリジナルテキストの配信など、ホームページ等により成果を発信・普及している。今後も他校の参考となるよう、様々な方法で積極的に情報を発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・都独自の理数に関する指定校の設定や高大連携の推進など、理数系教育の充実に意欲的であり評価できる。
- ・新学習指導要領の「理数探究基礎」「理数探究」を各学校が導入するために必要な校内組織体制の構築に向けて、都独自に理数アカデミー校及び理数リーディング校を指定して探究的な学習の指導を推進しており、今後その成果が期待される。

東京都立日比谷高等学校（管理機関：東京都教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH推進委員会の定期的開催、「理数探究Ⅰ」担当の理数教員を中心とした毎週1回の打合せ等、丁寧に進捗管理しながら事業を推進する体制となっていることは評価できる。理数以外の幅広い教科の教員も巻き込み、全校的に取り組んでいくことが望まれる。
- ・3期目の学校として成果と課題の分析・検証・評価を定量的に行い、データを蓄積していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・次期学習指導要領の新科目「理数探究」を学校設定科目「理数探究Ⅰ」として新規開講する等、理数系教育に重点を置く観点から教育課程を改善していることは評価できる。「理数探究ⅠⅡ」の履修者を一層増加させるための具体的な取組が望まれる。
- ・「SSH課題研究Ⅱ」（1単位）の内容が、各種海外研修の体験、レポート作成や発表などの集約にとどまり、共同研究や課題研究を中心とした現地での議論など積極的な内容が薄いため、改善が望まれる。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、理科・数学以外の教員も巻き込んで教科間連携及び授業改善を推進していくことが望まれる。
- ・探究活動のガイドブックを作成し、生徒全員に配布していることは評価できる。改良を重ねるとともに広く公開していくことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSHを体験し、大学や大学院で活躍している卒業生を課題研究の指導に活用して

いることは評価できる。

- ・理科、数学及び情報の教員が協力して課題研究等の指導にあたっている。理数系教員以外の関わりが弱い点については改善が望まれる。
- ・教員の指導力向上に向けた取組を更に積極的に実施していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学の研究室訪問や出張授業、海外の大学との連携など、積極的に取り組んでおり評価できる。
- ・海外生徒と様々な問題について意見交換をして交流を深める機会を設定するなど、国際性を高める取組を積極的に行っており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校ホームページでSSHの取組を紹介している点は評価できる。課題研究に関する取組や授業改善に関する取組など、他校で具体的に活用できる成果を分かりやすく発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・都独自の理数に関する指定校の設定など、理数系教育の充実に意欲的であり評価できる。
- ・新学習指導要領の「理数探究基礎」「理数探究」を各学校が導入するために必要な校内組織体制の構築に向けて、都独自に理数アカデミー校及び理数リーディング校を指定して探究的な学習の指導を推進しており、今後その成果が期待される。

東海大学付属高輪台高等学校（管理機関：学校法人東海大学）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH推進委員会、企画運営会議を核として全教員参加で組織的に研究計画を推進しており、評価できる。
- ・運営指導委員会からの指導・助言を受けた対応等、組織的な事業改善が図られており評価できる。課題研究を普通クラスにも展開し全校体制となったことで、生徒の取組のばらつきや教員の指導力など実施上の課題もいくつか生じており、引き続き検討していくことが望まれる。また、教員の意識の変容等に関する調査分析も期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校全体として理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・課題研究の全校化等、積極的に取り組んでおり評価できる。普通クラス2年次「探究活動」のテーマには調べ学習的なものも多いため、テーマ設定時の指導を工夫することなどにより、研究の質を更に高めていくことが望まれる。
- ・ワークシートや教材を開発しており評価できる。4期目の学校として、これらの成果をより一層広く発信・普及することが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・外部講師と教員が連携して授業を行う「ユニット方式」の指導方法の確立や、普通クラスの探究活動ではクラスを解体して研究テーマごとに再編成し、それぞれの専門に応じた教員をメンターとして配置するなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており評価できる。
- ・全校的な探究活動の開始に伴い生じている課題を解決するため、教員の指導力向上を図る研修を引き続き充実させていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている

- ・ 大学教員に課題研究の指導を支援してもらうなど、大学・研究機関・企業等と積極的に連携しており評価できる。
- ・ 海外連携校とスカイプによる情報交換、課題研究に関する生徒同士の意見交流等を定期的に行っており、特にタイとの交流は、国際的な共同研究を実施しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ ワークシートや教材を校内サーバーで一括管理するなど、学校内における研究成果の共有・継承を図っており評価できる。4期目の学校として、これまでの成果を全国の他の学校も活用しやすい形で整理・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ ICT教育整備、理科実験機器の充実や教員研修の支援、大学教員との連携促進など、今後も継続的な支援を実施していくことが望まれる。例えばSSH卒業生の追跡調査等に関しても、学校法人の支援によって検証が容易になると考えられるため、この点での支援強化も期待される。

聖光学院中学校高等学校（管理機関：学校法人聖マリア学園）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・年次毎に課題を把握し、解決に向けた取組を組織的に行っており評価できる。
- ・SSH推進委員会内に「企画・運営担当」を設置し、月1回の定例会に卒業生アドバイザーを招いて助言を受けつつ、成果の分析・検証を行っている点は評価できる。
- ・継続的に生徒と教員の変容を把握し、客観的・定量的な分析・検証も行うなどして、事業の改善発展に活かしていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・中高を通して理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・通常の理科・数学や理科・数学以外の教科・科目においても探究的な学習活動を積極的に取り入れて、課題研究と有機的につなげていくことが望まれる。また、そのような授業改善を学校全体に広げていくための組織的な取組にも期待したい。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学生や大学院生にTAとして課題研究の指導に関わってもらうなど、外部人材を活用した指導体制を工夫しており、評価できる。
- ・個々の教員がどのように授業改善を行っているか、普段の授業が探究的になっているのか、常に検証していくことが望まれる。また、校内研修の実施等、教員の指導力向上に向けた組織的な取組の工夫にも期待したい。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・海外研修プログラムを毎年工夫して実施するなど、国際性を高める取組を積極的に行っており、評価できる。海外研修に参加した生徒がどのように変容しているのか、

また全体にどのように貢献しているのか等について検証し、海外研修と他の取組をつなげて双方の効果を高めていくことが望まれる。

- ・多くの生徒が理数系クラブに所属し、国際科学オリンピックや外部コンテストで優れた成果をあげるなど活発に活動しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・生徒成果発表会等を通じて、生徒間の研究成果の共有・継承に取り組んでおり評価できる。指導ノウハウ等も含め、教員間における研究成果のより積極的な共有・継承の仕組みづくりが望まれる。
- ・各教員の工夫によって開発された教材や授業で用いるワークシート等について、他校の参考になるよう積極的に公開・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の取組に資するICT環境整備等を実現しており、評価できる。県内私立学校のリーダー的役割を果たすべく、引き続き積極的にSSH事業の成果を管理機関として広く発信・普及していくことが望まれる。

石川県立七尾高等学校（管理機関：石川県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・4期から新しく始めた取組についてはSSH推進室が企画・運営の中心となっているが、安定期に入った取組については学年・分掌に運営の大半を委ねるなど、事業の推進体制が持続可能なものとなるよう学校全体で取り組んでおり、評価できる。
- ・SSH推進会議等の会議・打合会を週1回開催して教員間で情報を共有し、成果と課題の分析や改善に向けた取組を組織的に行っており、評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・教科「探究」の設置をはじめ、各科・コースに応じて、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・多くの教員が「探究」の指導に関わることで、各教科においても「探究」で身に付けたスキルを活用する授業が展開されはじめており、評価できる。引き続き積極的に授業改善に取り組んでいくことが望まれる。
- ・「段階的ルーブリック」の開発や、取組終了時の自己評価を時系列で記録する「知の履歴」の取組など、評価手法の開発や実践に意欲的に取り組んでおり評価できる。
- ・「探究スキルを習得するための教材」と「探究スキルを活用する教材」を作成し、指導経験の少ない教員や他校でもすぐ活用できるようにしている点は評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・教科「探究」では、クラス単位での活動を基本としながらも、ねらいに応じて、学年全体、科・コース別で活動ができるように時間割を変更しながら柔軟に対応しており、評価できる。各科・コース協働で探究活動を行う「融合プロジェクト」の取組も特色があり、評価できる。
- ・互見授業の実施や校内外の研修会・発表会への参加など、教員の指導力向上に向けて積極的に取り組んでおり評価できる。探究活動指導歴が長い教員を全体の統括として配置し、各グループの指導教員に助言したり一緒に検討したりすることで、全

体の指導力向上を図っていることも評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・生徒が大学や企業等の研究者から講義や実習を受ける機会を設けたり、課題研究における高大連携、高大接続に資する研究会への参加など、積極的に取り組んでおり大変評価できる。
- ・SSC（スーパーサイエンスクラブ）が設置され、理数科全員120名、普通科希望者24名の多くの生徒が所属している。普通科の入部者が増加傾向にあるほか、各種コンクールや大会等に積極的に参加しており、大変評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ユニットの教材をパッケージ化して、担当者が変わっても利用できるように工夫して作成しており、成果の継承という観点から評価できる。
- ・課題研究発表会の公開や説明会の開催、県内外からの視察受け入れ、研究会や雑誌等での情報発信などに取り組んでおり、評価できる。4期目の学校としてこれまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・教員の加配等の人的支援、設備費等の財政支援を行っており評価できる。
- ・「高等学校における探究型学習推進事業」では、県内の20校を指定し、探究活動の普及に努めている。SSH指定校の教員を推進委員に任命して事業運営に関わってもらするなど、研究成果の活用が図られるよう工夫しており評価できる。
- ・教育課程研究集会でSSH指定校の実践事例を紹介したり、SSH指定校3校を含めた5校を「いしかわニュースーパーハイスクール」に指定して合同発表会を開催したりするなど、SSH指定校を核にして、更に取組を広げていこうとする動きが見られ、評価できる。

福井県立若狭高等学校（管理機関：福井県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・校長のリーダーシップの下、事業の精選や教員の役割分担を適切に行い、教員間のコミュニティを確立させることで全教員が積極的かつ意欲的にSSH事業に取り組める体制を構築しており、大変評価できる。
- ・第1期指定時の研究成果を踏まえ、更に工夫したインタビュー調査や質問紙調査等を行い、課題研究で身に付いた生徒の資質・能力を具体的に分析している。様々な評価方法を用いて多面的に成果と課題の分析・検証を行っており、大変評価できる。経年変化の評価についても引き続き取り組んでいくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・全ての学科において理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。各学科の特色を活かして3年間を通じた課題研究を実施し、海外研修や国際シンポジウムで発表ができる高度なレベルの理数分野の課題研究を実現していることは大変評価できる。
- ・1年次から複数回の探究サイクルを経験させることで、探究への主体性を育てており、評価できる。
- ・各教科において探究的な学習活動を積極的に取り入れており、大変評価できる。また、独自の評価基準表を開発し、教育評価の専門家からの指導を仰ぎながら生徒の資質・能力の向上の分析に取り組むなど、探究的な学習の指導と評価のあり方に関する実践研究を積極的に進めており、大変評価できる。
- ・学校設定教科「探究」の指導案や教材、「基礎科学」における地域資源を題材とした教材等、特色ある教材開発を積極的に行っており評価できる。開発した教材を全てホームページ上で公開して積極的に発信している点も大変評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・ 課題研究を行う学校設定教科「探究」の指導には約70名の教員が関わるなど、全校的な指導体制となっており大変評価できる。
- ・ 卒業生をはじめとする大学生・大学院生、民間企業の研究者等と連携した指導体制を構築し、生徒の課題研究の多様性に対応できるようにしており、大変評価できる。
- ・ 公開研究授業・研究協議会、全校教職員による互見授業、県の教員指導力向上奨励事業等を活用した研究など、教員の指導力向上に向けた多様な取組を組織的に実施しており大変評価できる。また、「若手授業力向上塾」等により、新採用教員や若手教員の育成を積極的に行っている点も評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・ 最先端の研究に触れる機会や研究交流の場を国内外において様々な形で設定し、先進的な理数系教育に積極的に取り組んでおり評価できる。また、福井県立大学海洋生物資源学部や東京大学海洋アライアンスと協力協定を結び、高大接続の改善に資する協議等を進めており、大変評価できる。
- ・ 国際科学オリンピックや科学の甲子園予選に多くの生徒が参加するなど大変活発に活動しており、評価できる。卒業生による指導も工夫されており、生徒の今後の一層の活躍が期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・ 毎月の職員会議後に30分程度の「プチ研修」を設け、「探究学習における形成的評価のあり方」などの具体的なテーマで研修を行い、そこで研究成果の共有を図っている点は大変評価できる。
- ・ 学校ホームページにSSH独自のページを設け、研究成果を詳細に発信している。また、国内に限らず国際的な場面での教員・生徒の招待講演や発表、教員の学会発表、他校からの学校訪問受け入れ等、研究成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり、大変評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 加配教員や理数系ALTの配置、ICT環境や遠隔授業システムの整備、SSH指定校連絡協議会や福井県合同課題研究発表会の開催等、指定校への支援を適切に実施しており評価できる。福井県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

山梨県立甲府南高等学校（管理機関：山梨県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校務分掌として「SSH推進部」を設置し、理科や数学以外の教員も含めた全職員で組織的に事業を推進しており、評価できる。
- ・毎年2回、生徒には「SSH事業意識アンケート」を、教員には「職員自己評価・点検シート」を実施し、その結果をもとに成果と課題の分析・検証を適切に行っており評価できる。理系希望者が70%を超え、卒業生の約65%が理数系学部へ進学するなど、生徒の理数系分野への興味関心の高まりが数値にも表れてきている。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・3年間にわたって課題研究を行う「フロンティア探究Ⅰ」「フロンティア探究Ⅱ」「フロンティア探究Ⅲ」をはじめ、SS科目の設置など、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、大変評価できる。
- ・1年次に課題研究のプロセスを全員に経験させ、夏季休業期間中は基礎実験講座、統計処理・情報活用等の授業を集中的に実施するなど、課題研究の質を高めるための工夫を行っており、大変評価できる。
- ・オリジナルのポートフォリオ「Frontier Discovery」を使って探究活動の学習履歴をまとめ、生徒が自己の成長を実感できるような仕組みを構築したり、課題研究ではルーブリックを用いた評価やパフォーマンス評価を導入したりするなど、生徒の資質・能力についての多面的な評価手法の開発と実践に積極的に取り組んでおり、大変評価できる。
- ・全教科の教員が科学的な視点で自身の教科を教えるオムニバス形式の授業「科学の世界」を各教科年間2回実施すること等を通じて、探究活動と各教科・科目との連携を図っており、大変評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・複数教員によるティームティーチングをはじめ、南高 SS アカデミー会員である卒業生をTAとして活用するなど、研究のねらいに即した指導体制となっており、評価できる。
- ・全ての科目のシラバス作成と授業アンケートの実施、相互授業参観や教科ごとの研究授業・研究協議、全体研修会やフロンティア探究担当者の校内研修会等を通じて、教員の指導力向上に取り組んでおり評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学や研究機関、企業等と連携した「フロンティア講座」の実施など、先進的な理数系教育に取り組んでおり、評価できる。また、平成29年度より「山梨高大接続研究会」に参加し、探究活動と評価方法についての情報交換を行うなど、高大接続の改善に資する取組に着手しており、評価できる。今後の更なる成果が期待される。
- ・地域の小学校4校・中学校4校・高等学校6校から構成される「理数系教育地域連絡協議会」を年3回実施し、情報交換や協議を行って具体的な連携活動につなげたり、「山梨県サイエンスフェスタ」等に参加して県内の他校と積極的に研究交流を図ったりしており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH生徒研究発表会及び全体会には全職員が参加して、1年間の成果と反省を共有している。また、「課題研究データベース」を構築し、生徒と教員が過去の研究データをいつでも参考にできるようにするなど、学校内における研究成果や情報の共有に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・フロンティア講座のうち5講座を「公開講座」としたり、南高版ポートフォリオ「Frontier Discovery」の紹介や視察受け入れなど、成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり、評価できる。4期目の学校として、これまでの成果を全国の他の学校も活用しやすい形で整理・発信していくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH主担当者の授業持ち時間の軽減や、専門性の高い非常勤講師の配置、県内SSH指定校と山梨大学、高校教育課による情報交換会の実施、研究成果合同発表会の実施等、適切な支援を行っている。また、教育課程研究集会や高等学校理科研究協議会等においてSSH指定校の実践事例や成果を紹介するなど、教員の指導力向上にもつなげようとしており、評価できる。
- ・県のホームページにSSHのコーナーを設け、県内指定校の紹介を掲載するなど積極的に情報発信している点は評価できる。甲府南高校が4期にわたって培ってきた成果をどのように県全体に広げていくのか、戦略の更なる具体化が望まれる。

山梨県立韮崎高等学校（管理機関：山梨県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SSH企画実行委員会」と校務分掌「SSHサイエンス振興係」を中心に、全校体制の下で組織的に研究計画を推進しており評価できる。
- ・各事業の事後アンケート、探究ルブリック、コンピテンシー評価票、OPPAなどを活用して、成果と課題の分析・検証を行っている。意識調査の結果を見ると、生徒の資質・能力は概ねいい方向に変容しているようだが、「わからないことを質問できるようになった」「コミュニケーションが増えた」など、対話的な学びに関連する要素はまだ伸びる余地があると見受けられるため、引き続き取組を充実させていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・生徒に「課題研究評価規準（ルブリック）」や「コンピテンシー評価票」を示すことで、到達目標や伸ばしたい資質・能力について共有し、意識しながら学習活動を進めることができるよう工夫しており、評価できる。
- ・SS科目やスカラー内の「SSメソッド」「基礎実験」における学びが課題研究の質の高まりにつながるよう、引き続き連携を図りながら工夫して指導していくことが望まれる。
- ・探究ルブリック、コンピテンシー評価票、OPPAシート、課題研究評価規準などを開発しており評価できる。他校でも活用できるよう、積極的に公開・発信していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・グループで行う課題研究の指導については「ユニット制」で進めている。複数の教

科の教員が指導に関わる連携体制が構築されており、評価できる。

- ・教員の指導力向上に向けた取組については、校内研修や先進校視察を行っているが、学校全体での組織的な取組を更に積極的に行っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「スカラー」では大学教員等による「アドバンス講座」を実施しているが、事前に5～9時間の準備講座を高校教員が行うことで、生徒が無理なくアドバンス講座の内容を理解できるよう工夫しており、評価できる。準備講座の内容については、大学教員と高校教員とが情報交換を行いながら調整し、高大間の「育てたい生徒像・学生像」の相互理解にも繋げている。
- ・物理化学部、環境科学部、生物研究部を設置し、「スカラー」受講者は全員がいずれかの部に所属している。理数系コンテストや外部の発表会等に積極的に参加しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・職員の共有ネットワークにSSHフォルダを作成し、年度ごと、事業ごとに教材等を保存し閲覧できるようにするなど、学校内における成果や情報の共有を図っており、評価できる。
- ・山梨大学教授を講師に招いた「評価法研修会」、「3年生SSH課題研究成果発表会」、「文理科SSH研究交流会」等については、一般にも広く公開して実施しており、評価できる。今後も様々な機会を通じて、これまでの研究成果や指導方法等に関する情報を他校に発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH主担当者の授業持ち時間の軽減や、県内SSH指定校と山梨大学、高校教育課による情報交換会の実施、研究成果合同発表会の実施等、適切な支援を行っている。また、教育課程研究集会や高等学校理科研究協議会等においてSSH指定校の実践事例や成果を紹介するなど、教員の指導力向上にもつなげようとしており、評価できる。
- ・県のホームページにSSHのコーナーを設け、県内指定校の紹介を掲載するなど積極的に情報発信している点は評価できる。
- ・県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくことが望まれる。

山梨県立日川高等学校（管理機関：山梨県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SSH推進委員会」と校務分掌「SSH推進係」を中心に、全校体制の下で組織的に研究計画を推進しており評価できる。
- ・学校評価制度を導入し、保護者・学校評議員・教職員には「学校改善点検シート」によるアンケート調査を、生徒にはこれに加えて「授業アンケート」を実施し、成果と課題の分析・検証を行っている。生徒の資質・能力は国際性を除き、良い方向に変容し、職員の意識も概ね良い方向に変容しており、評価できる。引き続き、客観的な指標や定量的なデータに基づいた分析・検証を進め、取組の改善に生かしていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・3年間を通して課題研究に取り組む「SSI α ・ β 」「SSII α ・ β 」「SSIII」を設置するなど、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・課題研究の評価については、一枚ポートフォリオ評価（OPPA）やループブックを活用した評価を実践している。生徒のメタ認知を促し、生徒が自らの成長を認識することができるよう工夫しており、評価できる。また、担当教員も教員用一枚ポートフォリオへの記入を行い、指導計画や指導方法の改善に生かしており評価できる。
- ・「SS数学I～III」、「SS理科 α ・ β 」、「SS物理I・II」、「SS化学I・II」、「SS生物I・II」においては、主体的、対話的で深い学びの効果的な実践方法について研究を行っている。これらの科目における学びが、課題研究の質の高まりにつながるよう、引き続き工夫して指導していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究において全校職員から生徒が助言を得られるよう「ちえぶくろシステム」

を構築するなど、全校的な指導体制となっており評価できる。

- ・外部講師を招聘しての講演や校内相互研修の実施、教員用一枚ポートフォリオの活用、県内SSH指定校や県外先進校の発表会視察等を通じて、教員の指導力向上を図っており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSHクラス生徒を中心とする希望者を対象に、「サイエンスツアー」や「サイエンスラボ」等の取組を行うなど、大学や研究機関等との連携により先進的な理数系教育に取り組んでおり、評価できる。山梨大学と連携協定を結び、出前講座や体験講座を実施するとともに、高大接続の改善に資する取組にも着手している点は評価できる。
- ・山梨県の職業人とのつながりを生徒の課題研究の取組に生かすなど、地域と積極的に連携しており評価できる。生徒の主体的な課題設定及び課題研究の質の向上につながるような取組としていくことが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSI～III」の課題研究の教材や指導計画を校内サーバー上に保存して活用できるようにしたり、教員用ポートフォリオに毎時間の指導内容を記載して次年度の担当者に継承したりするなど、学校内における研究成果や情報の共有・継承に努めており評価できる。
- ・アクティブ・ラーニングや評価に関する研修会を、他校の教職員も受け入れて実施することを企画しており、評価できる。今後も様々な機会を通じて、これまでの研究成果や指導方法等に関する情報を他校に発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH主担当者の授業持ち時間の軽減や、県内SSH指定校と山梨大学、高校教育課による情報交換会の実施、研究成果合同発表会の実施等、適切な支援を行っている。また、教育課程研究集会や高等学校理科研究協議会等においてSSH指定校の実践事例や成果を紹介するなど、教員の指導力向上にもつなげようとしており、評価できる。
- ・県のホームページにSSHのコーナーを設け、県内指定校の紹介を掲載するなど積極的に情報発信している点は評価できる。
- ・県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくことが望まれる。

北杜市立甲陵高等学校（管理機関：北杜市教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 11 部署からなるSSH開発推進部では全教員がいずれかの部署に所属し、役割を全員で分担するなど、学校全体で事業を推進・管理する体制となっており評価できる。
- ・ SSHの取組を通じて、生徒にどのような資質・能力が身に付いているのか、引き続きルーブリック等の内容を改善しながら、丁寧かつ詳細な分析・評価を行っていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 探究的な視点を取り入れた理数科目の設置等、探究的な学習過程を積極的に取り入れようとしていることは評価できる。カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、課題研究や探究的な学習とその他通常の教科・科目を繋げるとともに、研究の質を高めていくことが望まれる。
- ・ 評価においてルーブリックやOPPAシート等を開発し活用していることは評価できる。広く公開し他校でも使用してもらい、更に改良を重ねていくことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 数学や英語等において少人数指導を行うなど、指導体制を工夫していることは評価できる。多様な分野における課題研究の指導をより一層充実させていくためには、TA・メンター等に外部人材を活用していくことも考えられる。
- ・ 教員に外部研修への参加を義務付けたり、生徒による授業評価を行ったりするなど、教員の指導力向上を図っており評価できる。校内の研修体制や他校との連携をより一層充実させるなど、更なる工夫が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・サイエンスアプローチⅠ・Ⅱにおいて、北杜市や企業等と連携を図って幅広い学習活動を展開するなど、地域と積極的に連携しており評価できる。引き続き取組の工夫と更なる発展が望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校ホームページやSSH通信等による外部への成果の普及・発信について、より一層充実させていくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校からの要望の聞き取りや非常勤講師の配置など、充実した支援をしており評価できる。指定校の取組の充実に向けて、県や他校との連携など、より一層の努力が望まれる。
- ・市の政策とも連携を図り、様々な取組を有機的につなげるとともに、SSH指定校における活動内容が他校にも広がるようにすることが望まれる。

長野県諏訪清陵高等学校・附属中学校（管理機関：長野県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・「SSH係」が数学科2名、理科4名、英語科1名、附属中1名で構成されるなど理数系の教員が中心になっているため、理数系以外の教員も巻き込み学校全体として研究計画を推進・管理していく体制を整えることが必要である。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・学校設定科目「問題発見」は、1、2年生の全生徒が履修する中心的な取組であるが、自然科学的ではない研究テーマが多く見受けられる。また、科学技術系人材の育成にいかにつながっているかについての説明や定量的データも不足している。理数系の課題研究や探究的な学習活動を積極的に行えるよう、学習内容や指導方法等の改善に向けた取組を行っていくことが必要である。
- ・より深い探究活動を行うことを希望する生徒のために「課題研究」を学校設定科目として放課後に設定しているが、履修者はごく少数であり、理数系教育の充実に資する成果が十分に表れているとは言い難い。教育課程外に科目を設置していることが生徒の負担となっていないか等の観点も含め、改善に向けた取組を行っていくことが必要である。
- ・課題研究や探究的な学習活動と通常の教科・科目との連携状況については、4期目の学校として取組が不十分である。また、理科・数学に限らず各教科・科目で探究的な学習過程や主体的・対話的で深い学びの視点を積極的に取り入れている様子も具体的に見受けられない。全ての教科・科目における授業改善を組織的に進めていくための具体策を検討し、実行していくことが必要である。
- ・学校設定科目「問題発見」のためのテキスト教材「ラーニングスキルズ」を開発し、学校ホームページに掲載している点は評価できる。4期目の学校としてこれまでの成果を生かして、他校でも活用できる効果的な教材等の開発が更に望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・学校設定科目「問題発見」の指導はティームティーチング形式で行っているが、理科の教員が入っておらず、探究的な科目の指導体制として適切かどうか検討することが必要である。
- ・理科・数学と他教科の教員が更に積極的に連携して、生徒の科学的探究能力の育成に全校体制で取り組んでいくことが必要である。また、6年間を通した科学技術系人材育成のため、附属中学校との連携体制もより強固なものにし、共に指導力向上を図っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・信州大学繊維学部と連携して「遺伝子操作実習」を行ったり、大学院生を招聘して研究内容や口頭発表に関するアドバイスを受けたりするなど、大学や外部人材と連携して先進的な理数系教育に取り組んでおり、評価できる。4期目の学校として、今後は高大連携から更に進んだ、高大接続の改善に資する取組等についても期待したい。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・「課題研究」のポスターをアーカイブ化したものや「問題発見」のテーマを清陵ネットにアップしたり、「SSH通信」や論文集を発行したりするなどして、校内での情報共有を図っている。今後は校内における成果の「継承」に資する取組も更に工夫して行っていくことが望まれる。また、4期目の学校としてこれまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが必要である。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・ICT環境の整備や教員配置における配慮、国内・海外研修への支援、「課題研究のすすめ方」と題した教員研修の開催、信州サイエンスキャンプの実施等に取り組んでおり、評価できる。
- ・当該指定校が抱える課題を共有し、改善に向けた適切な指導・助言を積極的に行っていくことが必要である。

岐阜県立恵那高等学校（管理機関：岐阜県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・探究理数科部のSSH実行委員会において週単位で取組状況の把握を行うとともに普通科における探究型学習の一層の推進のために「探究部」を新設して組織的に取り組んでおり、評価できる。
- ・それぞれの研究課題について、説得力のある検証結果が示されており、取組の有効性が伺える。
- ・ミニ課題研究を繰り返す系統的な働きかけにより、主体的にテーマ設定できる生徒が増加したことは評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・主体的な問題発見能力及び科学的探究力の育成を目指し、第1学年でテーマ設定、第2学年で本格的な課題研究の実施、第3学年でより高度な課題研究と外部発表に取り組むといった、理数系教育に重点を置いた系統的な教育課程編成となっており、大変評価できる。
- ・1年次に夏季休業中の自由研究を含め、短いスパンの課題研究（ミニ課題研究）を繰り返す取組は、生徒が自分の興味関心のある分野を見極め、主体的に課題研究を展開する力を養う機会として機能しており、通常の授業における生徒の主体性や積極性等にも寄与しているように見受けられ、大変評価できる。
- ・目的別に分析的な評価を可能とするルーブリックが開発され、積極的に自己評価と相互評価に関する取組が行われている。今後の更なる成果に期待したい。
- ・ワークシート等の教材をデジタルデータとしてしっかりと蓄積し、一部をホームページ上で公開していることも評価できる。

③ 指導體制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・様々な教科が連携を図った全校的な指導體制が構築されており、評価できる。

- ・全職員による授業改善週間や教員研修等を通じて、探究学習の手法や評価法を通常授業でも活用できるよう取り組んでいる点は、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・岐阜県内の理数科設置校や理数系教育先進校との合同課題研究発表会の開催、地域の中高生を対象とした探究講座「SSR恵那探究塾」「恵那田舎塾」の実施等、地域や他校と連携した取組を積極的に行っており、評価できる。
- ・科学部に理数科の生徒全員が所属し、理数系コンテスト等に積極的に参加して優れた成果をあげるなど、充実した活動状況となっており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSHに関する学校設定科目の指導に多くの教員が携わる体制を整えるとともに、SSH実行委員会の構成メンバーを毎年半数以上入れ替えるなどの工夫を行うことで、学校全体で指導法や成果の共有・継承が図られており、評価できる。
- ・学校ホームページ上での情報公開や県内の授業研究・講習会での事例発表等に努めており、評価できる。4期目の学校として、これまでの成果を全国の他の学校も活用しやすい形で整理・発信していくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・県独自の「理数教育フラッグシップハイスクール」の指定、県費による事務員の雇用、ICT環境整備、「ふるさと教育」による探究的な学びの推進など、当該校をはじめとして県内の理数系教育の発展に向けて様々な支援を行っており、評価できる。今後も適切に学校を支援していくことが望まれる。

静岡県立清水東高等学校（管理機関：静岡県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SSH企画運営委員会」及び校内分掌に位置付けた「SSH部」を中心に、研究計画の推進・管理を学校全体で組織的に行う体制となっており、評価できる。
- ・4期目の学校として、より多面的、客観的な評価手法による取組成果の詳細な分析・評価が望まれる。生徒の変容や身に付けた資質・能力、教員の意識変化等についての定量的データを示し、分析していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の取組を中心として、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・理数以外の各教科・科目においても、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた課題解決型の授業になるよう、学校全体で授業改善の取組を始めたことは評価できる。4期目の学校として、引き続き積極的に取り組んでいくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の指導については、1つの研究グループに助言教員を1人配置し、全教員が指導に関わる体制となっており評価できる。全教員が課題研究に関わることで、指導のノウハウを蓄積し、指導力の向上につなげている。外部人材やTAの活用等についても更に積極的に進めていくことが期待される。
- ・課題研究の指導力向上を図るための校内研修を実施する等、教員の指導力向上に向けた取組を更に工夫して積極的に行っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・海洋研究開発機構（JAMSTEC）との連携事業を新たに開始するなど、外部機関等と積極的に連携して先進的な理数系教育に取り組んでおり、評価できる。
- ・数学部、自然科学部（物理班、化学班、生物班、地学班）、パソコン部などが、理数系コンテストや科学オリンピック、外部の研究発表会等に積極的に参加して優れた成果をあげるなど、活発に活動しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・研究成果の共有・継承のため、課題研究指導マニュアルの作成や、過去の課題研究内容のデータベース化を進めており、評価できる。4期目の学校としてこれまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH事業の推進役となる教員の配置や理数系ALTの派遣、大学や企業等との連携支援、広報支援などを行っており、評価できる。また、理数科設置校9校を集めた「サイエンススクール連絡協議会」の開催、理数科課題研究発表会の開催等を通じて、指定校の成果の共有・普及に努めており、評価できる。
- ・静岡県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

愛知県立明和高等学校（管理機関：愛知県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・多様な教科の教職員から成る「研究開発部」を新たに校務分掌に位置付け、「SSH推進グループ会議」と「課題研究開発委員会」で協議しながら、研究計画を学校全体で推進しており、評価できる。
- ・運営指導委員会での指導助言を踏まえ、「課題探究」を中核に位置付けたカリキュラムマップの作成や1年生と2年生の課題探究のつながりの強化、「変容ルーブリック」や「データ活用の手引」の作成を進めるなど、適切に取組の改善を図っており評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3年間を通じた探究科目やSSH理数科目を設置するなど、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・課題研究の質をより一層高めていくことが望まれる。
- ・学校設定科目「課題探究」では、「変容ルーブリック」を用いた評価法を開発するとともに、現在は研究段階に応じた評価規準を生徒と教員が対話をしながら設定していく新たなルーブリックの開発にも着手している。指導と評価の一体化に向けて積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・「課題探究基礎」で活用するMCノート、「課題探究」で活用する探究ノート、先輩生徒からの「アドバイス集」など、オリジナル教材の開発に積極的に取り組んでおり、評価できる。これらの教材は適宜改良を加えるとともに、広く一般に公開し他校でも参考にしてもらおうことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・2年生の「課題探究」は2クラス5展開の少人数教育を行っているほか、「SSH

理科探究」の理科特別講座では最先端の講義や実験・実習が行えるよう外部人材の活用を図るなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており、評価できる。

- ・教員の指導力向上に向けて、外部の研修会や研究発表会に参加したり、探究的な学習活動のノウハウに関する校内研修を実施したりしている。今後も更に工夫した組織的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・夏季休業中に大学や研究機関を訪問し、講義受講や実験・実習などの体験的活動を行う「サイエンスツアー」や「一日研究員体験」の実施、大学教員や研究者を講師とした出前授業など、先進的な理数系教育に取り組んでおり評価できる。今後は高大連携から更に進んだ、高大接続の改善に資する取組等についても期待したい。
- ・英国研修とオーストラリア研修を毎年交互に実施し、現地の交流校において研究発表と科学をテーマにした交流活動を行ったり、「明和グローバルサイエンス交流会」で外国人高校生や大学生、大学院生を招いて課題探究のポスター発表や質疑応答を行ったりするなど、国際交流に積極的に努めており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員用指導書「課題探究トリセツ」を開発して指導ノウハウの共有・継承に役立てており、評価できる。
- ・「あいち科学技術教育推進協議会」において研究成果に関する資料を配布したり、学校ホームページ等を通じて情報発信を行ったりしている。様々な機会を捉えて、全国に向けた普及・発信に更に積極的に取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・非常勤講師の配置、県立SSH指定校8校を幹事校とした「あいち科学技術教育推進協議会」における指導助言、大学や研究機関との連携支援、「科学三昧 in あいち」の開催支援、課題研究をテーマとした教員研修会の開催など、指定校への支援と成果普及の取組を適切に行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、特色に応じた積極的な支援を引き続き行っていくことが望まれる。

三重県立伊勢高等学校（管理機関：三重県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH企画委員会を設置し、週1回時間割に組み込んで実施するなど、各教科や分掌等と連携しながら学校全体で事業を推進・管理しており、評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校設定教科「SS」を中心に、3年間を通して理数系教育に重点を置いた系統的な教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・トップ層の育成を目的とした「SSアドバンス探究ABC」(国際科学オリンピックコース、課題研究コース)と、通常の「SS探究I II III」を併せて設置することにより、全校生徒を対象とした課題研究の指導とトップ層の育成がうまく融合している。
- ・各教科においても課題研究を意識した授業が行われており、評価できる。通常の授業にどのようにして探究的な学習過程を取り入れ、課題研究につなげていくことができているか、他校の参考となるように実践例をまとめ、発信していくことも期待される。
- ・1年次の「地域のPBL」や2年次の「課題研究」等、積極的に教材開発をしており評価できる。これらの教材は適宜改良を加えるとともに、広く一般に公開し他校でも参考にしてもらうことが望まれる。また、現在検討中の「課題探究能力育成の手引き書」の速やかな完成・普及についても期待したい。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全教員が課題研究に関わり、学校設定教科「SS」での成果が、各教科の特質を踏まえた授業改善にもつながっており、評価できる。
- ・「SSアドバンス探究」での指導方法やノウハウをSSH企画委員会において検証し、「SS探究」の指導にも活かす流れが構築されており、評価できる。
- ・定期的に発表の場を設定し、教員だけでなく先輩が後輩を指導するなどして、生徒の主体性や協調性を育てている点は評価できる。また、課題研究で専門的な指導が

必要な場合に、専門的知見を有する外部人材につなぐ体制を構築していることも評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・国際科学技術コンテストへの挑戦に向けて、大学教授等の講座を開講する等、高いレベルの理数系教育に取り組んでおり評価できる。これらの講座を他校と連携して開講し、地域の中学生、高校生、大学生も参加できるようにしていることは、普及の観点からも評価できる。
- ・科学系クラブを統合した SSC(スーパーサイエンスクラブ)への参加者は順調に増加しており、教育課程に位置付けた「SSアドバンス探究C」とも連動して、各種コンテスト等でも成果をあげるようになってきており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究を学年団全体で進めることで、研究成果の共有や指導ノウハウの継承が図られる体制となっており評価できる。
- ・課題研究の授業を県内の他校教員に積極的に公開したり、高大連携講座を地域の中学生や大学生等にも広く開放したりするなど、普及・発信に努めており評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH指定校を中心とした県立高等学校16校による「みえ科学探究コンソーシアム」を組織して、年に3回各校の担当者を集め、効果的な指導方法・評価方法の普及や各校の情報共有・連携を図っている点は評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

滋賀県立虎姫高等学校（管理機関：滋賀県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 担当国会議、SSH推進室、SSH委員会といった3つのレベルで研究計画を推進管理するとともに、課題の解決に向けた改善の取組も積極的に行っており、評価できる。
- ・ 1期目の課題を踏まえ、2期目からは「究理Ⅱ」にSコースとDコースを設け、探究型授業を理系全員に広げている。生徒の変容については更に伸びる余地があると見受けられるため、特にSコースについては、理系人材育成の観点から、課題研究の質をより一層高めていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 定期考査とパフォーマンス評価の組み合わせ、研究ノートの評価、ルーブリックや観点別評価表の活用、生徒の自由記述文を材料として評価規準の内面化を図る手法の開発など、生徒の資質・能力についての多面的な評価手法の開発と実践に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・ 「究理Ⅰテキストブック」、「究理Ⅱ研究倫理ガイドブック」、「課題研究安全ハンドブック」などの独自教材を積極的に作成しており評価できる。今後は開発した教材等の成果物をより広く公開していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 「究理Ⅰ」「究理Ⅱ」では教科・科目を越えたチームティーチングを行うなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており、評価できる。外部人材やTAの活用等について更に積極的に検討していくことが望まれる。
- ・ 科目単位で実施した授業改善の取組に関する報告書の配布、授業法や育成したい力

についてのワークショップの実施、授業見学カードを活用した公開授業の活性化、先進校視察など、教員の指導力向上に向けた取組を工夫して行っており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・滋賀医科大学、長浜バイオ大学、滋賀大学データサイエンス学部と連携協定を締結するとともに、様々な大学と連携してサマーセミナーやバイオセミナーで発展的講座を実施している。また、「究理Ⅰ」のフィールドワークでは、毎年50か所以上の大学・企業・研究所を訪問する等、先進的な理数系教育に取り組んでおり評価できる。滋賀大学データサイエンス学部とは、高大接続の改善に資する授業デザインの共同開発に取り組んでおり、今後のより一層の発展に期待したい。
- ・虎姫地域や長浜市と連携して、地域の小学生に対して生徒が科学の原理や面白さを伝える講座「サイエンスレクチャー」を毎年実施している。今後は他のSSH指定校や高等学校等と連携した取組等についても期待したい。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全ての取組において過去の経験者が担当に加わるように人員配置を工夫しているほか、進転任教員に対するSSH校内研修会の開催、担当者会議やオリジナルテキストの活用等を通じて、校内における研究成果の共有・継承を図っており評価できる。
- ・課題研究発表会を公開しているほか、滋賀県の理科実習助手研修において教員が実験教材の紹介と生命倫理に関するレクチャーを行ったり、他県から長期滞在型の教員研修を受け入れたりするなど、成果の普及に努めている。学校ホームページを更に充実させるなどして、研究成果や開発した教材等をより一層積極的に公開・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・臨時講師1名とALT2名の配置、SSH指定校交流会の開催、「探究する力育成セミナー」等の実施、「滋賀の教師塾」で教職志望者にSSHの成果を伝えるなど、指定校への支援と成果の普及に積極的に取り組んでおり、評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、特色に応じた適切な支援を引き続き行っていくことが望まれる。

滋賀県立彦根東高等学校（管理機関：滋賀県教育委員会）【4期4年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・卒業生によるディスカッションを開催し、「高校時代のSSHの取組が今どのように活かされているか」、「今振り返ってみて、高校時代のSSHの取組はどうあるべきか」などについての意見を集約し、成果と課題の分析・検証や取組の改善に活かしており評価できる。
- ・リーダーシップ育成評価・検証プログラムを開発しており、成果が期待される。開発した評価法については積極的に公開し、外部からの意見等も踏まえながら改良を重ねていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SS コースの生徒に対しては「科学探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、SS コース以外の生徒に対しては「LSP.Element」「LSP.Advance」「LSP.Global」を設定して課題研究に取り組んでいるほか、SSを付した理数科目を設置するなど、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・「科学探究Ⅰ・Ⅱ」で教科横断型の教材開発を行ったり、多くの教科でICTを活用しながらアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を展開したりするなど、積極的に授業改善に取り組んでおり評価できる。
- ・課題研究における実験ノート作成の指導ノウハウをガイドブックにまとめているほか、海外の連携校と協同で課題研究活動を行っていく際の手法についても蓄積している。これらの成果は積極的に公開し、発信していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・県採用の特別非常勤講師「博士教員」やSSコースの卒業生が課題研究の指導に加

わるなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており評価できる。

- ・全教員が授業を公開し、生徒が主体的・意欲的に学ぶ授業となっているかどうか検証する取組や、先進校視察、学校訪問受け入れ、授業改善に係る研修会やファシリテーター研修会の開催等、教員の指導力向上に向けた取組を積極的に行っており評価できる。4期目の学校として、今後も更に工夫した組織的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSコース生に対する「Science English」の取組、海外連携校とのSkype等を用いた定常的な交流や課題研究に係る意見交換等の実施、相互訪問など、国際性を高める取組を積極的に行っており、評価できる。
- ・SS部（科学部）として、物理・化学・生物・地学・数学の各班を設け、64名の生徒が所属している。数々のコンテストや大会に参加して優れた成果をあげるなど、活発に活動しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・4期目の学校として、成果の継承や共有をより強く意識した取組を積極的に実施していくことが望まれる。
- ・「彦根東サイエンスフェスティバルⅠⅡ」の開催は評価できる。学校ホームページを更に充実させるなどして、研究成果や開発した教材等をより一層積極的に公開・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・臨時講師1名と博士教員1名、理数系ALT1名の配置、SSH指定校交流会の開催、「探究する力育成セミナー」等の実施、「滋賀の教師塾」で教職志望者にSSHの成果を伝えるなど、指定校への支援と成果の普及に積極的に取り組んでおり、評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、特色に応じた適切な支援を引き続き行っていくことが望まれる。

京都府立嵯峨野高等学校（管理機関：京都府教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・校内業務遂行の中核分掌である教務部でSSH事業を推進するなど、組織的に研究計画を推進しており評価できる。
- ・「SSLⅡ・Ⅲ評価シート」の作成や電子ネットワークの活用による卒業生アンケートシステムの開発等、成果と課題の分析・検証に積極的に取り組んでおり評価できる。自己評価票5ページに記載されている「明らかになった課題」については、今後改善に向けた具体策を検討していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSLⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「AL」など課題研究に係る取組を系統的に位置付けるとともに、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・「探究活動における指導のガイドライン」を作成したほか、「SSLⅡ・Ⅲ評価シート」、「口頭発表およびポスター発表評価用ルーブリック」、「英語によるポスター発表評価用ルーブリック」を作成する等、指導と評価の一体化に積極的に取り組んでおり、評価できる。これらの成果については積極的に外部に発信していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「スーパーサイエンスネットワーク京都校会議」や「京都サイエンスフェスタ」などでの中核校としての役割を通じて教員の指導力を向上させる仕組みを作っており、評価できる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について、学校全体で推進していくための具体的方策を検討・実施していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 課題研究における大学との連携に加え、高大接続を視野に入れた広島大学等の「高大での教育改革を目指した理数分野における入学者選抜改革」事業への参加、京都大学「高大接続型特色入試」に対応した学修状況のポートフォリオ化等、高大接続の改善に資する研究も実施しており評価できる。
- ・ 「S E I・II」、SAGANO GLOBAL PRESENTATION、海外パートナー校訪問、アジアサイエンスワークショップ、海外留学等、国際性を高める取組を多岐に渡って実施しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 教務部を中心に全校体制で事業に取り組むとともに、開発教材や指導案のアーカイブス化を行うなど、学校内での成果の共有・継承が図られており評価できる。教員用にチームコミュニケーションソフトウェアを導入するなどして、全教員で情報共有を図っている点も評価できる。
- ・ 開発した教材等の成果について、積極的に普及・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 「スーパーサイエンスネットワーク京都校」を指定し、合同研究発表会を年2回実施したり、「京都数学グランプリ」で大阪府教育委員会と合同でコンテストを実施したりするなど、SSH事業の成果普及や教員の指導力向上に向けた取組を積極的に行っており、評価できる。
- ・ 高大連携から更に進んだ、高大接続の改善に資する取組等についても、管理機関としてより一層支援していくことが望まれる。

京都府立洛北高等学校・洛北高等学校附属中学校（管理機関：京都府教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「洛北 Step Up Matrix」を活用して成果と課題の分析・検証を工夫して行い、生徒の変容を定量的なデータで示しており、評価できる。開発したルーブリック等については、引き続き改善することで精緻化し、他校に普及していくことが期待される。
- ・大学院の指導教官にアンケート調査を実施するなど、卒業生の追跡調査を丁寧に行っており、評価できる。
- ・全校体制に向けてより一層努力し、一部の教員に負担が集中しないよう、引き続き組織的に取り組んでいくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・附属中学校では独自教科「洛北サイエンス」を設定し、高校学校では「洛北サイエンス」「洛北サイエンス探究」につなげるなど、中高6年間を通して理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・課題研究において構築した「洛北 Step Up Matrix」に基づく目標設定やルーブリックを用いた評価等のPDCAサイクルの仕組みを、通常の教科・科目においても確立していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の充実と先進的な理数系教育の実現に向け、外部人材の活用や教員の指導力向上のための取組について更なる工夫が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・校内課題研究発表会やアドバンスセミナーの際に、大学等の研究者によるルーブリックを用いた評価を行い、高校教員による評価との比較を行ったり、大学院の指導教官にアンケート調査を実施して、卒業生が身に付けた力を発揮できているかを検証したりするなど、高大接続の改善にも資する研究を積極的に行っており評価できる。
- ・科学技術・理数系のコンテストに生徒が積極的に参加し成果をあげるなど、活発に活動しており評価できる。課外講座「洛北サイエンスチャレンジ」の取組を文理コースにも広げ、学年やコースの枠を越え多くの生徒が参加できるようにしたことも評価できる。今後も生徒の創造性や自主性の更なる育成が望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH担当者を固定化させない人事配置の工夫等により、学校内において研究成果の共有・継承を図っており評価できる。
- ・研究成果物として、開発した評価ルーブリックや授業実践集の一部を公開しており評価できる。今後もより多くの教材等を、他校も活用しやすい形で公開していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「スーパーサイエンスネットワーク京都校」を指定し、合同研究発表会を年2回実施したり、「京都数学グランプリ」で大阪府教育委員会と合同でコンテストを実施したりするなど、SSH事業の成果普及や教員の指導力向上に向けた取組を積極的に行っており、評価できる。
- ・高大連携から更に進んだ、高大接続の改善に資する取組等についても、管理機関としてより一層支援していくことが望まれる。

大阪府立岸和田高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SSH研究開発部」において企画立案や成果分析などを行い、文系教科の教員も含めた「事業推進会議」で各学年や教科等との調整を図りつつ研究計画を推進しており、評価できる。
- ・生徒の学習意欲向上や理系進学率に、SSHにおける各取組がどのように関係し影響を与えているのか、更に丁寧な分析が求められる。また、成果と課題の分析・検証で明らかになった「いかに生徒たちへの意識付けを行い、自主性を育てていくか」という課題について、具体的な対応策を検討し改善していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・1学年のセレンディピティ、2学年の文理課題研究、3学年のキャリアスタートゼミなど、3年間を通して課題研究に関連する取組が充実しており評価できる。
- ・ルーブリックを教員と生徒が共有することで現状把握や研究水準の向上に役立つ等、評価手法の開発・実践に工夫して取り組んでおり評価できる。
- ・課題研究と通常の教科・科目とのつながりや連携をより一層意識していくことが望まれる。
- ・ルーブリック、ワークシート、論文用フォーマットの開発等、積極的に教材開発に取り組んでおり評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・2年次の課題研究の時間を同一時間帯に設定することで、文系と理系の生徒が共に課題研究を行えるようにしたり、卒業生をTAとして活用して生徒への助言を行ったりするなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており、評価できる。

- ・先進校視察やフォーラムへの参加、各教科における研究授業の取組などを通じて教員の指導力向上を図っており、評価できる。今後も更に工夫した組織的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・地域の小中学生を対象とした実験講座や出前授業、小学校教員向け理科実験研修会の実施やサイエンス・スクール・ネットワークへの参加等、地域や他のSSH指定校と積極的に連携を図っており評価できる。
- ・「サイエンスカフェ」や生物部を中心とした台湾姉妹校との共同研究など、理数系クラブが積極的に活動しており評価できる。生徒の意欲や主体性を更に伸ばすことができるよう、今後も積極的な支援が望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSH研究開発部」「事業推進会議」で成果や課題について共有し職員会議で報告することで学校内における情報共有を図るとともに、課題研究発表ポスターの校内掲示や「課題研究論文集」を図書室に配架し閲覧できるようにするといった工夫も見られ、評価できる。
- ・課題研究発表会を地域の中学生や他校の教員、卒業生などに公開しているほか、課題研究論文集をホームページに掲載するなど、研究成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・T R yシステムを導入し、学校が必要とする人材を確保できるように支援している。
- ・大阪サイエンスデイの開催では、教員を審査員にすることで、成果の普及と人材育成を図っている。
- ・校長裁量予算の拡大、サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）研究担当者会議の開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、多岐にわたって積極的な支援を行っており評価できる。
- ・引き続き、当該指定校の課題を踏まえた適切な支援が望まれる。

大阪府立泉北高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・第2期から継続した取組に加え、課題研究マニュアルの改定や、課題研究検索システムの作成と活用、泉北高校卒業生ネットワーク SSOnet の作成に取り組むなど、ほぼ計画通りに進捗しており、評価できる。
- ・成果と課題の分析は、生徒や保護者、教職員対象のアンケートにより行われている。生徒の変容を分析する評価法についての研究実践も期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理数数学や理数理科は1、2年次では20名程度の少人数授業を行い、新たな実験教材の開発を行うなど、理数系教育に重点を置いた授業を展開しており、評価できる。
- ・「課題研究マニュアル」等により指導の形を作り、理数系科目以外の科目についても探究的な要素を取り入れて対話的な授業を行うなど改善が図られており、評価できる。
- ・1年次の「科学探究基礎」は希望者対象の選択科目とし、その後それらの生徒をコアにして2、3年次では「科学探究ⅠⅡ」を全員が履修する教育課程となっている。科学探究基礎を履修した生徒には、2年次以降でのリーダー的な役割をしっかりと自覚させるようにしたい。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・少人数授業により実験実習や問題演習で丁寧な指導を行えるようにしたり、「科学探究ⅠⅡ」では多くの生徒に対して細やかな指導を行える体制を整えたりするなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており評価できる。
- ・卒業生等の外部人材の活用や、教員の指導力向上を目指した校内研修の実施等についても検討していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大阪市立大学での最先端実習「市大理科セミナー」や、近隣大学と協力した高大連携講座、大学の研究室訪問による実験・実習体験など、先進的な理数系教育に取り組んでおり評価できる。また、運営指導委員の大学教員と高大接続の課題について意見交換を始めており、今後の成果が期待される。
- ・サイエンス部は様々な行事や学会等に積極的に参加するなど、充実した活動状況であり評価できる。サイエンス部の部員増加に向け、今後も生徒の活動を積極的に支援していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・「課題研究マニュアル」の作成や、課題研究の研究発表要旨やポスターなどを検索閲覧できる「課題研究検索システム」を構築したことは、学校内における研究成果の共有・継承に大きく貢献する取組であり、大変評価できる。
- ・学校ホームページをわかりやすく整備し、報告書や課題研究マニュアルを掲載するなど、成果の普及・発信を積極的に行っており、大変評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・T R yシステムを導入し、学校が必要とする人材を確保できるように支援している。
- ・大阪サイエンスデイの開催では、教員を審査員にすることで、成果の普及と人材育成を図っている。
- ・校長裁量予算の拡大、サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）研究担当者会議の開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、多岐にわたって積極的な支援を行っており評価できる。

大阪府立千里高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数系教員を中心に研究計画を推進・管理している。特定の教員の負担軽減や社会科学的テーマでの探究活動を支える観点からも、全教員参画の教材開発や指導体制強化等により、全校的な取組としていくことが望まれる。
- ・それぞれの取組において成果と課題の分析・検証を行っている。今後は明らかになった課題の解決に向けて、必要な改善の取組を組織的に進めていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3年間を通じて課題研究に取り組むための教育課程が編成されている。探究活動を支える理系教科については時間的に十分ではないと自己評価されている。今後の改善が望まれる。
- ・理科の授業と課題研究との連携については一定の効果が認められている。他教科との連携等については、今後更に進めていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・探究活動の分野・領域が多岐に渡るため、生徒に充実した指導を行う観点からも理数系以外の教員の積極的な関与や外部人材の活用も含め、指導体制の更なる充実を検討していくことが望まれる。
- ・主体的で対話的な深い学びを目指した全教科での研究授業や教員研修の実施等、教員の指導力向上のための取組を積極的かつ組織的に実施しており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・サイエンスガイダンスや研修旅行、大学教員を招聘した講演会など、大学との連携により先進的な理数系教育に取り組んでおり、評価できる。今後より多くの生徒が参加する取組に発展させていくことが期待される。
- ・「科学探究」において、近隣の大学院生からアドバイスを受けられるようにしている点は評価できる。他分野にも広げていく予定とのことなので、今後の成果に期待したい。
- ・他のSSH指定校と共同で行うセミナーや、大阪サイエンスデイへの参加、千里フェスタにおいて研究成果を地域に一般公開する等、地域や他のSSH指定校等と連携した取組を積極的に行っており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・国際シンポジウムを利用して探究活動の成果の共有を図ったことは評価できるが、組織的かつ日常的に研究成果を共有・継承していくための仕組みづくりも望まれる。
- ・学校ホームページにおける実施報告書や研究要旨の公開、千里フェスタの一般公開等により、成果の普及・発信を行っていることは評価できる。今後も成果を蓄積しつつ、ホームページをより充実させたり開発した教材を公開したりするなど、更に積極的な取組が望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・T R yシステムを導入し、学校が必要とする人材を確保できるように支援している。
- ・大阪サイエンスデイの開催では、教員を審査員にすることで、成果の普及と人材育成を図っている。
- ・校長裁量予算の拡大、サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）研究担当者会議の開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、多岐にわたって積極的な支援を行っており評価できる。

大阪府立天王寺高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・各学年にSSH担当者を配置し、週1回開催するGL委員会に全てのSSH事業の取組状況を集約して研究計画の推進・管理を行うなど、学校全体で事業に取り組む体制を構築しており、大変評価できる。
- ・生徒の意欲の向上や進路の変化、教員の意識変容等をアンケートにより分析している。グループで研究活動を行うカリキュラムを開発し実施したところ、研究内容の質の低下等の課題が生じたが、複数の改善策を講じて対応するなど、成果と課題の分析及び改善の取組を適切に進めており、大変評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・「創知Ⅰ」「創知Ⅱ」「創知Ⅲ」で3年間を通して課題研究に取り組む仕組みを作るとともに、年次進行に伴い内容を深化させることのできる構造となっており、大変評価できる。また、統計学やディベートに関する内容も追加し、2年次に行う課題研究をより充実・発展させることができるよう配慮するなど、SSHのねらいを踏まえた教科・科目編成となっており、大変評価できる。
- ・各分野のルーブリックの開発、貢献度調査の実施、探究型学力高大接続研究会の設立と標準ルーブリックの共同開発等、生徒の資質・能力についての多面的な評価手法の開発と実践に積極的に取り組んでおり、大変評価できる。
- ・アクティブ・ラーニングの手法の実践やルーブリックの作成・活用など、多くの教員が授業改善に積極的に取り組んでおり、大変評価できる。
- ・研究倫理やディベートに関する教材等を積極的に開発しており、評価できる。開発した教材等については、360人同時展開の課題研究の運営・評価方法や教員配置の工夫等の成果と合わせて、広く公開していくことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学年生徒 360 人が同時に課題研究に取り組むために、教科に関係なく約 30 名の教員を配置するなど、全校的な指導体制となっており評価できる。また、外部人材として、大学教員や弁護士、大学の外国語講師を活用する等、研究のねらいを達成するために必要な指導体制を工夫して構築しており、評価できる。
- ・課題研究の指導法や評価法に関する複数回の教員研修や研究倫理に関する研修、探究型学力高大接続研究会への参加、大阪サイエンスデイへの審査員としての参加など、教員の指導力向上に資する多様な取組を積極的に実施しており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・医療系志望生徒に対する実習、「ウルトラレッスン」や研究室訪問など、大学等と連携した先進的な理数系教育に積極的に取り組んでおり、大変評価できる。また、探究型学力高大接続研究会の活動を通じて京都大学、大阪大学と高大接続の改善に資する協議を開始しており、今後の成果が期待される。
- ・理数系クラブの部員数約 100 名、科学オリンピック受験者数約 400 名が優れた成果をあげるなど、大変活発に活動しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究の論文集を 1 年生全員に配布することや、生徒の優れた課題研究や海外研修の成果を校内に掲示すること等により、学校内での成果の共有・継承に取り組んでおり評価できる。
- ・教職員や運営指導委員、大学関係者、他校の教員へ報告書を配布、学校ホームページや同窓会会報にSSHの取組を掲載する等、成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。4 期目の学校として、これまでの成果を全国の他の学校も活用しやすい形で整理・発信していくことが期待される。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・TRyシステムを導入し、学校が必要とする人材を確保できるように支援している。
- ・大阪サイエンスデイの開催では、教員を審査員にすることで、成果の普及と人材育成を図っている。
- ・校長裁量予算の拡大、サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）研究担当者会議の開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、多岐にわたって積極的な支援を行っており評価できる。

大阪府立富田林高等学校・中学校（管理機関：大阪府教育委員会）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・年次毎の取組状況の把握、成果分析、課題の解決に向けた取組を着実にを行い、前年度の課題について具体的に改善を図っており評価できる。
- ・課題研究はじめ複数の取組についてアンケートを実施するなど、成果と課題の分析・検証に積極的に取り組もうとしており評価できる。ルーブリックについては、活用方法の改善とその効果について確認・検討している段階であり、引き続き取り組んでいくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「探究Ⅰ」の取組に資する理数系の知識を増やせるよう理数系科目の内容を見直したり、「探究Ⅱ」の単位数を増やして探究をより深められるようにしたりするなど、課題研究の取組の充実を核として理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・ルーブリックとPROG評価、独自のアンケートなどを活用した評価方法の開発・実践に取り組んでおり、評価できる。
- ・「探究Ⅰ」において各教科と探究活動とのつながりを理解できるような講義を取り入れるなど、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた取組を行っており評価できる。また、アクティブラーニング推進チームを作り、中高一体となって組織的に取り組んでいることも評価できる。
- ・開発した教材データの蓄積を進めているが、今後は他校でも活用できるように広く公開し、改良を重ねていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員の間で適切に役割分担を行い、指導体制を全校的なものにしており評価できる。
- ・先進校視察や校内研修など、教員の指導力向上のための取組を行っており、評価できる。今後も更に工夫した組織的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・大学の研究室で課題研究についての指導助言を受けられる仕組みをつくる等、生徒のやる気や課題研究の充実につなげる形で大学との連携を図っており、評価できる。
- ・理数系のコンテストに積極的に参加しており評価できる。部活動の場所、時間、指導法、授業での探究活動と関連付けを図る等の工夫により、科学部に参加する生徒を更に増やしていくことが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSHニュースの配布や校内ポスター掲示により、学校内における研究成果の共有を図っている。共有・継承の手法についてはより一層工夫していくことが望まれる。
- ・学校ホームページでの情報公開、地域フォーラムにおける成果の発信や普及に取り組んでおり、評価できる。引き続き成果を蓄積するとともに、ホームページの一層の充実等、積極的に取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・TRYシステムを導入し、学校が必要とする人材を確保できるように支援している。
- ・大阪サイエンスデイの開催では、教員を審査員にすることで、成果の普及と人材育成を図っている。
- ・校長裁量予算の拡大、サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）研究担当者会議の開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、多岐にわたって積極的な支援を行っており評価できる。
- ・引き続き、当該指定校の課題を踏まえた適切な支援が望まれる。

大阪府立三国丘高等学校（管理機関：大阪府教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校設定科目「CSI・II・III」の開講をはじめ、理数系教科の授業改善や体感三丘セミナーの実施など、計画通りに進捗しており評価できる。
- ・企画会議とCS委員会により、課題研究の進め方とSSH全体について検討しながら計画を推進し、取組状況や成果分析について情報共有しつつ課題の解決に向けて学校全体で取り組んでいる点は評価できる。
- ・アンケートを中心に成果と課題の分析・検証に取り組んでいる。今後は生徒や教員の変容についてエビデンスを示しながら分析・検証していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究を行う学校設定科目「CSI」「CSII」「CSIII」、課題研究の取組を支援する学校設定科目「SS物理・化学・生物」を設置する等、理数系教育に重点を置いた系統的な教科・科目編成となっており、評価できる。実践科学実験が充実しており、課題研究に活かされていることも評価できる。
- ・課題研究の取組を評価する独自のルーブリックの開発や、ポートフォリオを用いて生徒同士がフィードバック行い、互いの成長を促す仕組みを取り入れており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題研究の指導について大学や地元企業からの協力を得たり、卒業生のTAを活用したりするなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・留学生を招いて英語による課題研究発表会を行ったり、アメリカ研修を実施したりするなど、事前学習を含め、国際性を高める取組を積極的に行っており評価できる。

英語でのポスターセッションの取組等については、英語科教員に負担が集中しすぎない形で進めていくことが望まれる。

- ・理数系のクラブはおよそ 30 名の生徒が所属し、理数系コンテストや外部の発表会に積極的に参加する等、充実した活動状況となっており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・研究発表会や全校集会での成果発表、CS委員会や各教科会等を通じて、学校内における研究成果の共有・継承を図っており、評価できる。
- ・理数系クラブの生徒による地域小中学生対象の「SSH三丘科学教室」の開催や学校ホームページでの情報発信など、成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。今後も成果を蓄積しつつ、ホームページをより充実させたり開発した教材を公開したりするなど、更に積極的な取組が望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・TRYシステムを導入し、学校が必要とする人材を確保できるように支援している。
- ・大阪サイエンスデイの開催では、教員を審査員にすることで、成果の普及と人材育成を図っている。
- ・校長裁量予算の拡大、サイエンス・スクール・ネットワーク（SSN）研究担当者会議の開催、京都・大阪数学コンテストの開催など、多岐にわたって積極的な支援を行っており評価できる。

兵庫県立加古川東高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・実施計画に沿って各研究開発が着実に実行・評価されており、成果が期待できる。
- ・「理数科SSH推進部」、「教育企画部」での計画を基に、全教員体制で推進されており、分担や責任体制が明確である。
- ・検証の結果がフィードバックされ、次年度の活動に活かされている。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・3年生の課題研究において研究のまとめを行い、そのまとめから自らの将来設計を考えさせる「学びの設計書」の取組は、大変評価できる。
- ・課題研究において問いを立てることを重視していることが、研究力の育成に大きく役立っている。
- ・課題研究の校外発表件数が増加し、海外での研究発表にも繋がるなど、課題研究の質が高まっている点は大変評価できる。
- ・普通科の探究活動における、アンケートツールを活用した振り返り・フィードバックの取組は他校への普及が期待できる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・複数教科によるチームティーチング、授業マニュアルによる指導法の共有などを実施しており、評価できる。
- ・ベテラン教員から指導経験の少ない教員へ指導法を継承するための指導体制の工夫がなされており、評価できる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・海外での研究発表を積極的に行っており、研究力・発信力・国際性の育成に大きく

寄与していると認められる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 今後は研究開発の分析結果を整理して、他校が活用しやすい形で焦点を絞って成果の普及活動を行っていくことが望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 兵庫「咲いテク」事業や「サイエンス・トライやる事業」の実施、実験機器等購入費の支援、ALT配置支援など、SSH指定校への適切な支援と県内理科教育推進施策が積極的に展開されており、評価できる。

兵庫県立豊岡高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・研究計画が着実に進展しており、全校を挙げての研究発表会「豊高アカデミア」を予定より1年早く実施したのは評価できる。
- ・課題研究だけでなく、各教科のルーブリック作成にも着手するなど、活用しやすく、分析・評価に使いやすいものに改訂する努力を継続していることは評価できる。
- ・卒業生アンケートによる事業検証や卒業生データベースの作成は、今後の有効性が期待できる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・自作教材「探究ノート」の開発や、理数以外の教科においても探究的な学習の実践が増えている点について評価できる。
- ・ルーブリック面談による指導と評価の一体化の取組は評価できる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・地域や大学等の外部人材を有効に活用しており、評価できる。
- ・異なる教科や年齢から成る「授業研究ユニット」を形成し、全教員が年3回授業研究を実施するなど、授業力向上に向けた6つのプログラムを展開している。先進的な理数系教育の充実を図る観点から、今後も教員の更なる意識改革に取り組んでいくことが望まれる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・サイエンスツアーなど、大学・企業や地方自治体と協力した連携授業を多数行っていることは評価できる。
- ・全校生、地域、県外の学校にも開かれた発表会「豊高アカデミア」の実施や、豊岡

市役所や地域の小・中学校と連携した事業が成果をあげており、評価できる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・上級生による課題研究指導や課題研究テーマ報告会、SSHポスターコーナー常設などは、学内での成果共有と継承に有効と考えられ、評価できる。
- ・学校ホームページを月平均15回更新し、研究開発した指導案やワークシート等を公開するなど、積極的な情報発信を行っている点は評価できる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・兵庫「咲いテク」事業や「サイエンス・トライやる事業」の実施、実験機器等購入費の支援、ALT配置支援など、SSH指定校への適切な支援と県内理科教育推進施策が積極的に展開されており、評価できる。

兵庫県立三田祥雲館高等学校（管理機関：兵庫県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・生徒のルーブリックを用いた自己評価や生徒へのアンケート結果、理系選択者数の推移等、成果と課題の分析・検証に取り組んでいるが、主に年1回のアンケートに基づいて分析・検証しているため、アンケート実施についての更なる工夫が考えられる。
- ・生徒の主体性や生徒が自ら学ぶ力の育成について、更なる分析評価とその結果を踏まえた取組の改善が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「教員支援型」の探究活動に改善し、SR制やSRルームの設置等、理数系の課題研究を支援する仕組みをつくり、積極的に取り組んでいることは評価できる。
- ・教科「探究」の学年ごとの一斉授業や、「数学」の反転授業でのグループ学習やペアワーク等、課題の解決に向けた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っているものの、今後はより多くの教科で、課題研究との連携や探究的な学習過程の構築に積極的に取り組んでいくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究を行う教科「探究」は37名の教員が担当し、文系の教員も巻き込んで実施するなど、全校的な取組となっており評価できる。また、理系の課題研究については大学研究者や企業等との連携により外部人材を活用し、研究のねらいに即した指導体制としている。先進的な理数系教育の充実に向け、今後も更なる工夫が望まれる。
- ・年2回の公開授業週間を設け、全教員が年1回の公開授業を行うなど、教員の指導

力向上のための取組を組織的に実施しており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「こうみん未来塾」を三田市と連携して開催し、地域の子供たちとの科学プログラムを実施したり、兵庫「咲いテク」事業において県内のSSH指定校と交流したりするなど、地域や他のSSH指定校等と連携した取組を積極的に行っており、評価できる。
- ・海外研修、留学生の受け入れ、ALTを活用して科学実験を英語で行うなど、国際性を高める取組を積極的に行っている点は評価できる。今後は参加する生徒数を増やすことや、成果を全校に普及する取組を強化していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・生徒の課題研究の成果物をまとめた「祥雲探究アーカイブ」を作成するなど、学校内における研究成果の共有・継承を図っている点は評価できる。
- ・取組により生徒がどのように変容したかを明らかにし、効果のあった取組のうち何をどのように普及させていくのか明確にする必要がある。その上で、更なる成果普及の取組が望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・兵庫「咲いテク」事業や「サイエンス・トライやる事業」の実施、実験機器等購入費の支援、ALT配置支援など、SSH指定校への適切な支援と県内理科教育推進施策が積極的に展開されており、評価できる。
- ・今後は当該指定校の状況や今後の方向性を見据えた指導・助言の充実を図ることが望まれる。

神戸市立六甲アイランド高等学校（管理機関：神戸市教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・おおむね計画通りに進捗しており、評価できる。
- ・3年間を通じた生徒の6つの力の伸長と各取組との関連性について、引き続き丁寧な分析・評価を行っていくとともに、教員の意識は向上しているものの指導力向上にはまだ結びつきが弱い点とその原因等について分析し、改善につなげていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究等を通して育みたい6つの力に基づいた全校生徒共通のルーブリックを開発し、常に改善に取り組んでいる点については評価できる。
- ・課題研究の充実に向けて、各教科・科目における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を、学校全体として組織的に推進していくことが望まれる。
- ・「課題研究の手引き」や「神戸学の手引き」を開発し、神戸市立高等学校の教員研修でも活用するなど、特色ある教材の普及に取り組んでおり評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員の指導力向上のための取組として、年1回の職員研修や他校への視察が行われているが、より積極的に実施していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・地域の中学生を対象としたサイエンスコンテストの実施、科学実験教室の実施につ

いては評価できる。自己評価票に記載のある自然科学研究部の地域連携の取組内容は、ボランティア的な要素が強いため、SSH事業の趣旨を踏まえた積極的な取組内容に高めていく必要がある。

- ・国際性を高める取組として、希望者10名程度による海外研修を行い、日本と海外の文化の違いを学ぶ等の取組を行っているが、参加生徒を増やしていくとともに、語学力の更なる強化や海外の高校との共同研究等も含め実施していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・校内の電子掲示板等を活用して、学校内における情報共有を図っていることは評価できるが、指導のノウハウや研究成果の共有・継承に向けてより一層の工夫が望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・少人数授業の実現に向けた教員1名の加配、ALTの充実、市内小中学校や企業等との連携を推進しており、評価できる。
- ・課題研究や探究的な学習活動のより一層の活性化に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

奈良県立奈良高等学校（管理機関：奈良県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSH推進委員会」で審議し、「プロジェクトチーム」で取組の原案を作成して「運営指導委員会」や「評価方法検討委員会」で検証を行うという流れの中で、組織的に事業を推進し、成果の分析と改善に取り組んでおり評価できる。
- ・改訂した「奈高生リサーチ」で調べた結果、「主体的に探究する力」や「創造することにチャレンジする力」など多くの力が、学年を経るほどに高まっていることが見受けられ、評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3年間を通して探究する力を系統的に育成することを目指した、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・8校連絡会議で作成したグループ単位の「研究の姿」を評価するループリックテンプレートの使用、育成を目指す力を「個人」レベルで評価する独自のテンプレートの作成、自己評価や相互評価など、評価手法の開発・実践に意欲的に取り組んでおり評価できる。
- ・理科・数学以外の教科・科目においても探究的な学習過程を積極的に取り入れており、評価できる。
- ・各SSH関連科目において、独自の指導内容・指導方法・実験方法を開発して実施しており、評価できる。4期目の学校として、今後はこれらの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、積極的に公開・普及していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・1学年全員の探究活動「地域・生活の科学」では1学年の全教員が担当し、2・3学年SSHコースの「SSP理数」では理科・数学の教員延べ8人が複数の課題研

究の指導を担当し、卒業生のTAにも協力を要請する等、研究のねらいに即した指導体制となっており評価できる。

- ・アクティブ・ラーニングについての校内研修、評価に関する研修、全教員がお互いに授業を見学し合い、意見交換する取組など、教員の指導力向上に向けた取組を組織的に実施しており、評価できる。今後も更に工夫した積極的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学での実習や研究所の見学、大学や企業の研究者を招聘した講演会等、先進的な理数系教育に積極的に取り組んでおり評価できる。また、「8校連絡会議」において高大接続の改善に資する研究や、課題研究の評価ルーブリックの開発を進めており、評価できる。
- ・科学技術系クラブの物理部、化学部、生物部、地学部、数学研究会、ロボット研究会に50名程度の生徒が所属し、理数系コンテストに積極的に参加して優れた成果をあげるなど、充実した活動を展開しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究や探究活動を担当する各教員が、指導内容や成果を教科のフォルダに記録・蓄積し、順次改良を加えながら引き継ぐシステムを構築するなど、学校内における研究成果の共有・継承を図っており、評価できる。
- ・生物・化学分野で「SSH成果報告会(理数科教員指導方法研究会)」を実施したり、理化学会や生物教育学会等で課題研究の指導法等について説明したりするなど、教員が成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり評価できる。4期目の学校として、学校ホームページ等の充実を図り、開発した教材等の成果物をより積極的に公開していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・奈良高等学校と県内のSSH指定校である青翔高等学校を、地域の理数系教育の中核拠点として位置付け、1名の理数科教員の加配を行い、様々なイベントや事業への参加を支援しており、評価できる。奈良県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

西大和学園中学校・高等学校（管理機関：学校法人西大和学園）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・校務分掌「企画開発部」を中心として全職員で事業に取り組む体制を整えるとともに、毎週土曜日に開催するSSH運営委員会において適切に事業の進捗管理を行っており、評価できる。
- ・成果と課題の分析・検証を適切に実施して事業の改善充実につなげており、評価できる。今後も生徒の変容と事業実施内容との関連性等の分析・評価を適切に実施していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・中学生対象のSSJを基盤として高校3年間で探究的な学習を展開する等、中学から高校までの6年間を通して理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・ルーブリックを用いた評価については、より客観性を高めるための工夫改善が望まれる。
- ・メンターマニュアル等の教材を開発し、学校ホームページ上で公開しており評価できる。
- ・高校については、SSコースでの取組や成果をSSコース以外の生徒へどのように広げていくのか、より一層の取組に期待したい。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全校的な指導体制を整えるとともに、大学生や大学院生の卒業生をTAとして積極的に登用したり、生徒のメンター制度を導入したりするなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており評価できる。

- ・「奈良県SSH教員情報交換会」等を通じて積極的に他のSSH指定校との連携・交流に取り組み、指導力向上につなげている点は評価できる。課題研究の指導力向上を図るための校内研修を実施する等、組織的な研修を更に積極的に行っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・大学と連携した「ラボステイ」により、高度な研究実習体験の機会を設けて、高大接続やキャリア教育の視点も踏まえた人材育成に取り組んでいる点は評価できる。このラボステイでの取組や成果をどのようにその他の生徒にも広げていくのか、その具体化が望まれる。
- ・多くの生徒が理数系クラブに所属し、科学オリンピックや外部コンテストでも優れた成果をあげるなど活発に活動しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・毎週1回SSH運営委員会を開催して情報を共有するとともに、顕著な成果については職員会議や職員専用校内Webで取り上げるなど、成果を共有・継承する取組を行っており、評価できる。
- ・各種発表会、スーパーサイエンス通信の発行、学校ホームページによる教材や活動内容の公開、他校からの研修受け入れ等によって積極的に成果の普及・発信を行っており、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・実験助手の配置やICT環境の整備、ラーニングコモンズ教室の整備等、探究的な学習活動を充実させていくための支援を適切に行っており、評価できる。これまでの4期にわたるSSH事業の取組や成果、プロセスを更に積極的に全国へ発信・普及していくことが望まれる。

和歌山県立海南高等学校（管理機関：和歌山県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・ 教員全員を研究開発委員としているが、それぞれの役割分担が明確でなく、取組状況の把握、成果の分析、課題の解決を学校全体で組織的に行っていくための体制や仕組みが確立していないように見受けられるため、改善が必要である。
- ・ 成果と課題の分析については、全体的に曖昧な記述が多い。根拠を明確にするとともに、客観的な指標や定量的なデータに基づいた分析・検証を進め、取組の改善に生かしていくことが必要である。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・ 2年次の課題研究（SITP）については、総合的な学習の時間に位置付け、教養理学科と普通科理系のそれぞれ1クラスを同時展開して、クラスを超えたグループ研究を行う形式で進めているが、それぞれの学科で育成を目指す人材像や資質・能力に応じた、適切な内容及び指導方法になっているかどうか、検証が必要である。
- ・ 課題研究や探究的な学習活動と通常の教科・科目との連携状況については、4期目の学校として取組が不十分である。また、理科・数学に限らず各教科・科目で探究的な学習過程や主体的・対話的で深い学びの視点を積極的に取り入れている様子も具体的に見受けられない。全ての教科・科目における授業改善を組織的に進めていくための具体策を検討し、実行していくことが必要である。
- ・ 各取組を通じて生徒がどのように変容したか、アクティブ・ラーナーとしての成長にどれくらい寄与したかなどについての分析・検証が不十分である。育成すべき生徒像を前提とした課題研究の指導法や評価法についての具体的な分析・検証についても示されていない。
- ・ 4期目の学校としてこれまでの成果を生かして、他校でも活用できる効果的な教材等の開発と普及が望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・ 卒業生や地域の大学の研究者等を講師として招いたり、大学院生にT Aとして課題研究の指導に関わってもらったりするなど、外部人材を活用した指導体制を工夫している点は評価できる。
- ・ 課題研究の指導方法等に関する組織的な校内研修を企画したり、目的を明確にした先進校視察を実施したりするなど、教員の指導力向上に向けた取組を積極的に行っていくことが必要である。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・ 大学や研究機関等と連携した実習や講義を実施している。更に工夫して外部機関等との持続的な連携の仕組みを構築し、先進的な理数系教育をより一層充実させていくことが必要である。4期目の学校として、今後は高大連携から更に進んだ、高大接続の改善に資する取組等についても期待したい。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・ 校内の教員用ネットワークサーバにSSH事業に関する全てのデータを蓄積することで、研究成果の共有・継承を図っていることは評価できる。
- ・ 4期目の学校としてこれまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが必要である。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・ 研究内容の実施に即した人事配置や、生徒科学研究発表会を開催するなどの支援を行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、学校が研究計画を適切に推進していくことができるよう、更に積極的に支援していくことが望まれる。
- ・ 和歌山県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。
- ・ 当該指定校が抱える課題を共有し、改善に向けた適切な指導・助言を積極的に行っていくことが必要である。

和歌山県立向陽高等学校・中学校（管理機関：和歌山県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「SSH推進部」を校内分掌に明確に位置付け、毎週開催するSSH推進部会議等を通じて進捗状況を確認しながら、研究計画を組織的に推進しており評価できる。
- ・教員の意識調査において、「課題の解決に向けた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を現在行っていない」と回答した教員が5割弱いるのは課題であり、改善が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・環境科学科・普通科ともに、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・課題研究のルーブリックを開発し改善を重ねるなど、生徒の資質・能力についての評価手法の開発や実践に意欲的に取り組んでおり、評価できる。
- ・探究的な学習に関する教材を作成している点は評価できる。今後はそれらを広く公開して、他校でも使いやすいように改善していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ほとんど全ての教員が課題研究や探究的な学習活動の指導を担当する等、全校的な指導体制となっており評価できる。
- ・課題研究の指導方法等に関する組織的な校内研修を企画したり、目的を明確にした先進校視察を実施したりするなど、教員の指導力向上に向けた取組を積極的に行っていくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・イギリスの姉妹校との交流や、台湾修学旅行における現地高校生との研究交流、「S S 探究科学Ⅲ」における地元大学の留学生とのポスターセッションなど、国際性を高める取組を積極的に行っており、評価できる。
- ・中高理科系クラブの生徒等が積極的にコンテストや外部イベントに参加し、優れた成果をあげるなど活発に活動しており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3期目の学校として、成果の継承や共有をより強く意識した取組を工夫して実施していくことが望まれる。
- ・これまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・研究内容の実施に即した人事配置や、生徒科学研究発表会を開催するなどの支援を行っており評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、学校が研究計画を適切に推進していくことができるよう、更に積極的に支援していくことが望まれる。
- ・和歌山県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

鳥取県立米子東高等学校（管理機関：鳥取県教育委員会）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH推進委員会、課題探究担当者会、教育企画部を中心に、学校全体で研究計画を推進する体制を整えており、評価できる。
- ・事業ごとにアンケートを実施する等、成果と課題の分析・検証に積極的に取り組んでおり、評価できる。教員の意識調査では約70%が「指導力向上に役立つ」と肯定的に回答するなど、意識改革が進みつつあり評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全ての生徒を対象とした「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」が1年次2単位、2年次2単位、3年次1単位で設置されるとともに、生命科学コースには学校設定科目「探究化学」を設置するなど、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・課題探究とその他の科目との連携については、「探究数学Ⅰ」や情報科との連携をはじめ、1年次のミニ課題研究における連携が進みつつある。課題探究やそれぞれの教科・科目における学びが相互により一層充実したものとなるよう、今後も様々な形で効果的な連携体制を構築していくことが望まれる。
- ・「SSH課題探究基礎ノート」などの特色ある教材を開発しており、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・課題探究について、1年次はクラス別ティームティーチング、2年次は少人数クラスの編成によってきめ細やかな指導を実現させるなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており、評価できる。
- ・6名の鳥取県エキスパート教員による研究授業の実施、月1回の課題探究担当者会の開催、先進校視察等を通じて、教員の指導力向上に積極的に取り組んでおり評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・大学での体験的実験実習や模擬講義、高大連携出前授業など、様々な形で先進的な理数系教育に取り組んでおり、評価できる。今後は高大連携から更に進んだ、高大接続の改善に資する取組等についても期待したい。
- ・自然科学部の部員数や各種コンテスト参加者数がSSH指定前より増加するなど、活動が活発になってきており、評価できる。また、自然科学部以外の生徒についても、土曜の課外活動や外部発表会に参加する者が増えている。今後もより一層生徒の主体性を育むとともに、活動の質を高めていくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・各教員が作成した資料や生徒の成果物については電子データで保存し、全教員が閲覧できるようにするなど、学校内における研究成果や情報の共有が図られており、評価できる。今後は校内における成果の「継承」に資する取組も更に工夫して行っていくことが望まれる。
- ・学校ホームページを通じた情報発信や小中学生向けの実験教室の開催等を通じて、成果の普及・発信に取り組んでおり、評価できる。引き続き研究成果を蓄積するとともに、他校にも分かりやすい形で積極的に発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・県の独自予算や事業を活用した支援、非常勤職員の配置など、様々な方法で指定校の取組を積極的に支援しており評価できる。また、「高校生理数課題研究等発表会」や「学びの文化祭」等の開催を通じて、県内の生徒間交流や指導者育成に取り組んでおり、評価できる。引き続き学校を適切に支援するとともに、鳥取県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

島根県立益田高等学校（管理機関：島根県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・アンケートやループリックを用いた評価等により、事業ごとに成果と課題の分析・検証を丁寧に行っており、評価できる。
- ・生徒の意識調査において、「レポートなどの提出物が多い」という回答が全国平均を大幅に上回っており、課題の一つと見受けられる。教員と生徒の負担感にも配慮しながら、事業の精選等も含め検討していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数科だけでなく普通科においても課題研究を重視し、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・「課題研究」「課題探究」についてループリックを用いた評価を実施し、生徒の自己評価でフィードバックさせるなど、生徒の資質・能力の評価手法の開発や実践に意欲的に取り組んでおり、評価できる。取組を通じて明らかになった課題を踏まえ、引き続き評価手法の改良を重ねていくことが望まれる。
- ・「サイエンスプログラム」を全校的な取組にしたことにより、各教科・科目の授業においても、データの読み取りや可視化の方法に関する指導を取り入れたり、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れたりするなど、授業改善が進められており評価できる。
- ・「科学的リテラシー基礎実習」や「論理的思考力育成基礎演習」のテキスト等については、改良を積み重ねながら活用しており評価できる。4期目の学校として、これらの成果を指導法などと合わせて積極的に情報発信していくことが期待される。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全校的な指導体制の下、少人数指導やティームティーチングなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており、評価できる。加えて、益田市による「魅力化事業コーディネーター」の配置等を通じて、益田市や地元企業等との連携を広げており評価できる。
- ・全体研修会や他校への視察等を通じて、教員の指導力向上を図っている。今後も更に工夫した積極的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「益田さいえんすたうん」を主催し、小中学生向けの科学ショーや科学実験体験、中高生を対象とした科学チャレンジ、科学ポスター発表、企業ガイダンスなど、多彩なプログラムを地域と連携して実施しており、評価できる。本取組が、生徒の資質・能力の育成にどの程度貢献しているのか、明らかにしていくことが望まれる。
- ・タイ王国海外研修等により、国際性を高める取組を実施している。プログラムに参加しなかった生徒へ成果を普及していくためのより一層工夫した取組も望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・年度当初のSSH事業研修会をはじめ、事前実施研修会や事後反省会など様々な機会を通じて校内における研究成果や情報の共有を図っており、評価できる。
- ・地域ケーブルテレビや学校ホームページを活用して研究成果を積極的に発信するなど、成果の普及・発信に工夫して取り組んでおり、評価できる。4期目の学校として、これまでの成果を全国の他の学校も活用しやすい形で整理・発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要する】

- ・教員1名の加配や人事配置の工夫、教員向け成果報告会の開催、科学の甲子園事業の充実等に取り組んでおり、評価できる。理数科の更なる活性化やPRも含め、当該指定校が抱える課題を共有し、引き続き積極的に指導助言していくことが必要である。
- ・島根県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の充実に向け、益田高校が4期にわたって培ってきた成果をどのように県全体に広げていくのか、戦略の更なる具体化が望まれる。

岡山県立玉島高等学校（管理機関：岡山県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・17のワーキンググループのいずれかに全教職員が所属するなど、学校全体として事業を推進する体制を構築しており、大変評価できる。
- ・年2回運営指導委員会を開催するほか、多様な専門性をもった運営指導委員に各事業の担当を割り当てて、担当教員が随時メール等で相談し助言を得られる体制を構築するなど、運営指導委員会が専門的見地からSSHの運営に効果的に寄与する仕組みを構築しており、大変評価できる。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・「研究俯瞰法」、「研究週報」、「課題研究の指導ごよみ」などの特徴的な取組を行い、探究的な学習態度を身に付けさせる手法を積極的に開発・実践しており、大変評価できる。
- ・ルーブリックやポートフォリオを用いた評価、パフォーマンステスト等、様々な評価手法を複数取り入れ意欲的に実践しており、大変評価できる。継続的な研究により、更に成果が明らかになることが期待される。
- ・課題研究と通常授業の連携に工夫が見られ、通常の授業にも探究的な学習活動のノウハウを積極的に取り入れており、大変評価できる。
- ・課題研究を中心として多くのオリジナル教材や指導資料を開発し、学校ホームページ上で公開しており、大変評価できる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・校内の指導体制は教科横断的・全校的なものとなっており、少人数制やクラス単位の授業など、研究のねらいに即した指導体制を工夫している。また、「玉島サイエ

ンスサポーター」などの外部人材を積極的に活用することで充実した指導体制を構築しており、大変評価できる。

- ・「課題研究メソッド」の活用や研修会による指導力向上を図っている。また、生徒の「研究週報」を教員間で回覧しコメントする取組は、生徒の研究指導に有益だけでなく、教員の指導力向上にも結び付いており大変評価できる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・「サイエンスキャンプ」「ハイパーサイエンスラボ」など大学と連携した先進的な理数系教育を実施しており、大変評価できる。また、県内の高校・大学と「高大接続教育問題協議会」を開催し、高大接続の改善に資する協議を行っていることも大変評価できる。
- ・地域の小中学生を対象とした科学イベント「玉島サイエンスフェア」の開催やサイエンスボランティアに関するプログラム開発、「探究活動プレゼンテーションアワード」の企画など、地域や他のSSH指定校等と連携した取組を積極的に行っており、大変評価できる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・教科横断的に協働して教材開発や指導資料作成等に取り組むことで、教員間での研究成果や情報の共有化を図っている。
- ・地元ケーブルテレビと連携して毎月1回SSHに係る番組を放送したり、近隣校の生徒や教員を対象とした「ポスター発表合同研修会」を開催したりするなど、成果の普及・発信に積極的かつ工夫して取り組んでおり、大変評価できる。
- ・「研究俯瞰法」について全国理科教育大会で発表を行う等、教員が積極的に成果を発信していることも大変評価できる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・県教育委員会と県内の大学等とで連携協力の覚書を交わすことで、大学等から様々な形での協力を得やすいようにしている。高校エキスパート活用事業の取組や理数系ALTの配置についても評価できる。
- ・岡山県教育委員会のホームページにSSHのページを設けて各指定校の開発教材を紹介したり、「岡山SSH連絡協議会」「岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会」を開催したりするなど、成果普及や県内の情報共有に積極的に取り組んでおり評価できる。
- ・「高大連携理数科教育研究会」等を通じて、高大接続の改善に資する取組の検討を更に進めていくことが期待される。

岡山県立津山高等学校（管理機関：岡山県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 中学と高校の教員が連携して中高一貫課題研究カリキュラムの開発に取り組み、年次団・各教科・各分掌が業務分担しながら全校的に研究計画を推進しており、評価できる。
- ・ 育成を目指す V(Vision)G(Grit)R(Research Mind) の3つの力について質問紙調査を実施し、特に3年次においては70%以上の生徒が全ての要素でVGRの伸長を実感している。普通科の年次間の変容の伸びが顕著でない理由については検証しながら改善を進めており、今後の成果が期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・ 理数科、普通科ともに課題研究を中心とした中高一貫の教育課程を編成し、研究者養成やサイエンスリテラシーの涵養を目的とした学校設定科目を設置する等、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、大変評価できる。
- ・ 課題研究においては研究段階ごとの評価ルーブリックを作成し、複数教員で評価を行って評価の精度向上を図ったり、「ラボノート」に日々の研究活動の振り返りを記入できる欄を設けてポートフォリオとして活用したりするなど、評価手法の開発と実践及び改善に積極的に取り組んでおり、大変評価できる。
- ・ 「津高型学習指導のスタンダード」で授業ごとの重要な視点をまとめ、教科指導における生徒と教員の共通理解を図ったり、理数以外の教科でも探究的な授業となるよう改善を進めたりするなど、全教科でVGR育成のための指導法の研究に取り組んでおり、大変評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・ 理数科の課題研究では外部人材も活用しながら指導し、普通科の課題研究では年次

団全教員が教科の枠を越えて指導に関わっている。中学校「サイエンス探究基礎」等では理科・英語科・情報科さらには中高の教員がチームティーチングで指導を行っている。「SS/NS/MS」では、多くの外部指導者と各教科の教員が連携して発展的な内容を指導するなど、研究のねらいに即した指導体制を様々な形で工夫しており、大変評価できる。

- ・ 課題研究に特化した教員研修会の実施、他校視察、中高の教員が取組の進捗状況や指導法について協議する時間を設けるなど、教員の指導力向上のための取組を組織的かつ積極的に行っており、大変評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・ 多くの大学等と連携した授業の展開、特に理数科では大学の研究室での実習や講義、大学院生との交流、病院実習など、様々な形で先進的な理数系教育に取り組んでおり、大変評価できる。
- ・ 理数科の生徒は全員科学部に所属し、理数系のコンテスト等に積極的に参加して成果をあげる等、充実した活動状況であり大変評価できる。また、科学ボランティア活動への参加者は100名を超えており、今後も更なる活躍が期待できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 毎週1回開催するSSH推進室会議や校務運営会議、職員会議で学校内における研究成果の共有・継承に取り組んでおり評価できる。
- ・ 学校ホームページで研究開発実施報告書や課題研究報告書、海外研修報告書などを全て公開している点は評価できる。また、学校訪問受け入れやSSH成果報告会における県外からの参加者受け入れについても評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 県教育委員会と県内の大学等とで連携協力の覚書を交わすことで、大学等から様々な形での協力を得やすいようにしている。高校エキスパート活用事業の取組や理数系ALTの配置についても評価できる。
- ・ 岡山県教育委員会のホームページにSSHのページを設けて各指定校の開発教材を紹介したり、「岡山SSH連絡協議会」「岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会」を開催したりするなど、成果普及や県内の情報共有に積極的に取り組んでおり評価できる。
- ・ 「高大連携理数科教育研究会」等を通じて、高大接続の改善に資する取組の検討を更に進めていくことが期待される。

広島県立西条農業高等学校（管理機関：広島県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・SSH推進会議、5つのプロジェクトチームと19のワーキンググループ、SSH事務局が有機的につながり、全教職員が一人一役以上を担う組織的な事業推進体制を構築しており、大変評価できる。
- ・「科学技術リテラシーに係る9能力」や「グリット（粘り強く取り組む力）」に着目し、多面的な手法により成果と課題の分析・検証を適切に行っており、大変評価できる。生徒の評価結果は各年次・学年において改善されており、教員の達成感も高まっている。今後も更に評価の客観性を高める工夫をしていくことが期待される。

②教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・教科・科目の連続性、発展性、サイエンスと農業の教科融合的な視点を踏まえた教育課程が編成されており、大変評価できる。
- ・「アグリサイエンス」では、課題設定能力の育成に特に重点を置き、探究のプロセスを高度化させつつ2度経験させるなど、生徒が主体的に課題研究に取り組むための工夫を積極的に行っており、大変評価できる。
- ・「科学技術リテラシーに係る9能力」を育成する授業づくりを全教科・科目で行い、積極的に探究的な学びが取り入れられている点は大変評価できる。課題研究で培った生徒の主体性が、通常の授業でも更に活かされるようにすることが期待される。
- ・一部の生徒にとどまらず、基礎学力を含め、全ての生徒の資質・能力をより一層底上げしていくための工夫が期待される。
- ・SSHのねらいに即した特色ある教材を積極的に開発し、他校でも使えるような汎用性が高いものになっている点は大変評価できる。

③指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程

度が高い】

- ・課題研究では理科と農業の教員がしっかりと連携し、外部人材の活用も積極的に行うなど、研究のねらいに即した適切な指導体制を整えており、大変評価できる。
- ・科学研究指導者研修の実施、学校設定科目等担当者間の学科・教科の壁を越えた連携など、教員の指導力向上のための取組を積極的に行っており、大変評価できる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・大学や研究機関と連携した先進的な理数系教育を積極的に行い、多くの生徒が活動に参加している。また、広島大学等と新しい高大接続の在り方等について検討を行っている点についても大変評価できる。今後の更なる成果に期待したい。
- ・海外校との共同研究の実施や「高校生科学技術グローバルサミット」の企画等、国際性を高める取組を積極的に行っており、大変評価できる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・WG等の担当者を経験のある教員と初心者の組み合わせにしたり、指導資料を頻繁に改訂したりするなど、学校内における研究成果の共有・継承に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・小中学生を対象にした講座の開講、生徒・教員のコンテストや学会での発表、開発テキストの学校ホームページ上での公開等、成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり評価できる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・教員2名の加配をはじめ、姉妹校連携の経費支援、課題研究に係る研修の機会の設定、県教育委員会HPでの広報など、総合的に支援しており評価できる。「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」の今後の成果にも期待したい。

山口県立宇部高等学校（管理機関：山口県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「基礎力」「探究力」「俯瞰力」を育成するための研究計画について、改善を図りながら順次実施しているが、「普通科への波及」に関する取組がまだ弱いように見受けられるため、改善が望まれる。
- ・生徒や教員へのアンケート調査や意識調査、ルーブリックを用いた評価等を通じて明らかになった課題への具体的な対応策を検討していくことが望まれる。また、生徒が各事業等を通じて資質・能力をどう高めたかの根拠となるデータが十分でないため、現在取り組んでいるルーブリックを活用した評価に基づく更なる分析・検証が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・探究科では、課題研究に関する学校設定科目「基礎探究」「発展探究Ⅰ・Ⅱ」の他に、保健と家庭基礎の学習内容を融合して、より科学的な視点から学ぶ学校設定科目「ヒューマンライフサイエンス（HLS）」を開設し、ミニ課題研究の取組を通じて理数系教育の充実に取り組んでおり、評価できる。
- ・各教科・科目においては、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく班別活動や他者と協働した活動、ディスカッション等を積極的に取り入れて授業改善を図っており、評価できる。
- ・「課題研究ノート」や「ルーブリック」を開発し、学校のホームページに掲載して成果の普及に努めている点は評価できる。3期目の学校としてこれまでの成果を生かして、他校でも活用できる効果的な教材等の開発が更に望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究やそれぞれの教科・科目における学びが相互により一層充実したものとなるよう、今後も様々な形で効果的な連携体制を構築していくことが望まれる。
- ・山口大学や奈良女子大学の教員を講師とした「HLS特別授業」の開講や、「発展研究Ⅱ」における大学院生や企業の方々とのグループディスカッションの実施など、外部人材を積極的に活用しており評価できる。
- ・課題研究の指導の充実に資する様々なテーマの教員研修や、大学教員を講師とした「授業研究会」等を通じて教員の指導力向上を図っており、評価できる。

④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・山口大学工学部での課題研究の指導や「教養セミナー」の受講など、大学と連携した先進的な理数系教育に積極的に取り組んでおり、評価できる。山口大学工学部とは高大接続の改善に資する取組も進められており、今後の更なる展開が期待される。
- ・学校設定科目「プロダクティブ・イングリッシュ（PE）」の設置をはじめとして、山口大学や宇部高専の留学生とのディスカッション、海外研修等、国際性を高める取組を積極的に行っており評価できる。

⑤成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3期目の学校として、成果の継承や共有をより強く意識した取組を工夫して実施していくことが望まれる。
- ・探究科の生徒による中学生向けの探究活動体験授業の実施、生徒研究成果発表会の公開、SSチャレンジクラブの地域活動、開発教材のホームページ掲載などに取り組んでおり、評価できる。今後は全国に向けて、より一層積極的に成果の普及・発信に取り組んでいくことが望まれる。

⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・平成29年度に県で初めてとなる「探究科」を当該指定校に設置した。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた県独自事業の指定校としても支援している。引き続き当該指定校の課題等を踏まえ、適切に指導・助言していくことが望まれる。
- ・「やまぐち理数教育推進協議会」の設置や「探究学習成果発表大会」の開催等を通じて県内の理数系教育推進や成果の普及・発信に取り組んでおり、評価できる。

香川県立観音寺第一高等学校（管理機関：香川県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校長のリーダーシップの下、「SSH企画委員会」を核に各種委員会やWGが組織的に機能・運営され、学校全体が一体となって事業に取り組んでおり評価できる。
- ・生徒や教員の変容に関する調査・分析・評価を様々な角度から行い、明らかになった課題をもとに改善の取組を進めており、評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・1学年全員が「科学探究基礎」を履修し、統計・情報の基礎に関する学習やミニ課題研究を実施して2年次以降の課題研究につなげる等、理数系教育に重点を置いた系統的な教科・科目編成となっており評価できる。
- ・課題研究の目標や評価の観点・基準を示した「課題研究ルーブリック」を開発し運用している。ルーブリックを用いた評価結果から明らかになった課題を踏まえ、授業改善にも繋げており評価できる。
- ・「全教科で育成する科学的探究力＝科学的問題解決・意思決定に必要な力」と位置付け、専門家や県の教育センターと連携して授業研究を推進し、全教科で問題の発見・解決のプロセスを基にした授業改善に積極的に取り組んでおり、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・課題研究の指導における教員配置の工夫や外部人材の活用等、研究のねらいに即した指導体制となっており評価できる。今後は課題研究と通常の教科・科目、通常の教科・科目間など、更に様々な連携が図られるよう、全校的な指導体制のより一層の強化が望まれる。
- ・公開授業研究会では、県の教育センターや大学教員からの指導助言も受けながら研究授業に取り組み、振り返り合評会では生徒も参加して授業を振り返るなど特徴的な取組を実践しており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・明確な目的をもって様々な大学と連携し、先進的な理数系教育に取り組んでおり評価できる。データサイエンス学部を設置した滋賀大学と連携協力協定を締結し、人的交流や知的資源等の相互活用を進めようとしている点も意欲的である。今後は高大接続の改善に資する研究について更なる深化が望まれる。
- ・「香川県高校生科学研究発表会」の幹事校を担当し、科学に関する中高連携の企画を立案し実施したことは評価できる。また、科学系部活動が中心となり、地域の小学生に科学の魅力や面白さを伝える活動を実施するなど、地域や他のSSH指定校等と積極的に連携しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数科で培ってきた指導方法や評価方法の成果を普通科にも広げ、探究的な学びの手法を学校全体で共有し成果を出していることは、評価できる。
- ・下級生が上級生の研究発表会等に参加することで、研究方法や技能の継承・発展を図っており評価できる。
- ・学校ホームページで研究開発実施報告書やSSH通信、開発した教材や授業実践事例等を積極的に公開しており、評価できる。今後も県内外に積極的な情報発信を行い、外部からの意見等も踏まえながら、取組や教材等の改良を重ねていくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員1名の加配、ICT環境の整備、統計教育に関する指導力向上のためのサポート等、積極的に支援しており評価できる。また、県教育センターや義務教育課の指導主事とも連携して指定校への指導助言を行っている。
- ・「香川県高校生科学研究発表会」や「香川県高校生探究発表会」の開催、「さぬき教育ネット」や県教委のホームページを通じて、SSH指定校の取組や活動に関する成果普及を図っており、評価できる。
- ・香川県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の充実に向け、観音寺第一高校での取組とその成果をどのように県全体に広げていくのか、戦略の更なる具体化が望まれる。

高知県立高知小津高等学校（管理機関：高知県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH・企画研修部による分掌会、各学年会、SSH担当者会を時間割の中に効果的に設定し、事業の計画内容を毎週確認する体制を構築しており、評価できる。
- ・現状はアンケートを中心とした評価方法となっているが、生徒の学習意欲や資質・能力の向上、生徒の変容等の分析をより客観的に行うための工夫が望まれる。また、理数科の生徒について有意差のある変容が見られていない点については、引き続き分析と検証を行い、必要な改善策を検討することが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・普通科、理数科の両方で3年間継続的に課題研究に取り組むほか、理数科では1、2年生で「サイエンスセミナー」や「OZUサイエンス」「サイエンスフィールドワーク」を実施する等、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・「OZU防災」や「科学英語」、「統計学超入門」等ではカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた教科・科目間連携が行われており、評価できる。
- ・探究ガイドブック「若鳩プラン」「課題研究のサポートブック」のほか、「OZUサイエンス実験書」や課題研究のルーブリック等を作成している。広く公開して他校でも使いやすいように改善していくことが望まれる。
- ・生徒が自ら課題を発見し主体的にテーマ設定していくためにはどうしたらいいか、引き続き校内で議論して具体化し、実践していくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全校体制で指導に当たり、外部人材をメンターとして活用するなど、研究のねらい

に即した指導体制を工夫しており、評価できる。

- ・校内研修や先進校視察等に取り組んでおり評価できる。今後も更に工夫した積極的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・地域の高等教育リソースを積極的に活用して先進的な理数系教育に取り組んでおり評価できる。高大接続に関する取組について、今後も更なる充実・発展が期待される。
- ・地域フィールドワークにおいて高知県内の様々な大学・企業・博物館 16 施設と連携を図るなど、地域と連携した取組を積極的に行っており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・4期目の学校として、成果の継承や共有をより強く意識した取組を積極的に実施していくことが望まれる。また、学校ホームページ等において、開発した教材や成果物を広く一般公開し、改善を図っていくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員の加配、理系のALT配置、県の様々な組織や大学等との連携の仲介など、適切な支援をしており評価できる。
- ・県内高校への生徒の研究発表を通じた普及には、積極的に取り組んでいる。高知県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。

福岡県立鞍手高等学校（管理機関：福岡県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校として定義した「たくましき7つの能力」（基礎知識・幅広い基礎力・探究力・人間力・批判的思考力・創造的思考力・協働的思考力）を育成するカリキュラム開発等を順調に進めており、評価できる。
- ・5つの委員会を設置して、委員会ごとに成果分析や課題解決策を実施する等、成果と課題の分析・検証に組織的に取り組んでおり、評価できる。
- ・授業開発アンケートを活用した取組が特徴的である。評価の妥当性や信頼性を更に高めるための工夫を行うなど、引き続き検討改善が望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・3年間全生徒が課題研究に取り組むなど、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・心理学と統計学の視点を踏まえた新しい評価法の開発に取り組むなど、生徒の資質・能力の評価手法の開発に積極的に取り組んでおり評価できる。
- ・全教科で授業改善が進められており、評価できる。課題研究とその他の教科・科目との連携についても、より一層推進していくことが望まれる。
- ・生徒用、指導用課題研究テキスト等、特色ある教材を開発しており評価できる。ホームページ上で公開していることも評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「指導用課題研究テキスト」の作成は、学校内における指導ノウハウの継承にも役立っていると考えられ、評価できる。
- ・職員研修の実施方法や内容等、教員の指導力向上のための取組について更なる工夫

が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・大学や企業と連携した実験実習や遠隔授業など、先進的な理数系教育に取り組んでおり評価できる。
- ・科学部の部員がコンテストや発表会等に積極的に参加しており評価できる。今後は、国際科学オリンピックや科学の甲子園等、更なる高みを目指してチャレンジしていくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・職員研修会、時間割の中に会議の時間として位置付けた「SSH課題研究企画・運営委員会」、指導用課題研究テキスト等で研究成果の共有・継承を図っている点は評価できる。
- ・開発した教材や、理数科における課題研究の論文共有フォルダを学校ホームページ上で公開するなど、積極的に成果の普及・発信を行っており、評価できる。メディアへの情報発信や他校からの研修受け入れなど、更なる工夫に期待したい。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員定数の加配等の支援を行っており評価できる。
- ・福岡県立学校教諭等を対象としたキャリアアップ講座に本校教員を講師として派遣したり、高校生科学技術コンテストの問題作成をSSH指定校教諭が中心となっていくなど、成果の普及と教員の指導力向上に取り組んでおり評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

福岡県立明善高等学校（管理機関：福岡県教育委員会）【2期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教科横断型科目の実施、理数科のみならず普通科にも拡大した課題研究の実施、科学系部活動や課題研究における外部支援体制の構築など、おおむね計画通り進捗しており評価できる。
- ・卒業生アンケートの結果も活用した分析に着手しており評価できる。引き続き、検証・分析の精度を高めるとともに、課題研究等の指導改善に生かしていくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・全教員が「授業工夫シート」を作成し、探究的な学習活動を取り入れた授業改善に取り組んでおり、評価できる。また、「定期考査分析シート」を活用して、全教科で思考力・判断力・表現力を測る問題の分析や観点別評価に関する協議を行っている点も評価できる。
- ・「STL科学技術研究Ⅰ・Ⅱ」については、課題を踏まえて単位数や指導計画を見直し、研究内容が深まるよう改善を加えており、評価できる。
- ・STL科目による教科横断型授業の取組は、生徒の学習意欲や興味関心を高めており、評価できる。今後は課題研究と通常の教科・科目等との連携もより一層図っていくことが望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「STL探究」「STL科学技術研究」等の指導において、大学教員等の外部人材の活用を図っており、評価できる。今後も更なる工夫が望まれる。
- ・教員自らが探究活動の流れや進め方を体験し、指導力向上につなげる「職員課題研

究」の取組は評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSHの取組によって「何を学んだか」という活動記録をファイリングし、ポートフォリオとして大学進学の際に活用できるようにするシステムの開発については、今後の成果が期待される。
- ・科学系部活動への参加人数が増加し、研究発表大会への出場数や入賞者数も増加するなど、充実した活動を展開しており評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数科上級生が1年生に対して課題研究の説明を行い、計画的に研究が進むようアドバイスしたり、全生徒の探究活動の成果をまとめた生徒作品集を新入生に配布したりするなど、生徒間での研究成果の継承を図っており、評価できる。
- ・開発したSTL科目の独自教材や、課題研究テキスト等については、積極的に公開し、外部からの意見等も踏まえながら改良を重ねていくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員定数の加配等の支援を行っており評価できる。
- ・福岡県立学校教諭等を対象としたキャリアアップ講座に本校教員を講師として派遣したり、高校生科学技術コンテストの問題作成をSSH指定校教諭が中心となっていくなど、成果の普及と教員の指導力向上に取り組んでおり評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、更に積極的に学校を支援していくことが望まれる。

佐賀県立致遠館高等学校・佐賀県立致遠館中学校（管理機関：佐賀県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSH推進委員会」に関係分掌・学年・教科の主任を配置し、SSHの研究開発を学校全体で横断的に行っていく体制となっており、評価できる。また、ワーキングチームによる研究開発、先進教育部による取組状況の把握・成果分析により、課題解決に向けた取組を組織的に行っており評価できる。
- ・「ルーブリックと成果物による成績評価システム」を開発し、改善を図りながら運用している。引き続き課題研究の指導に役立てていくことが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校設定科目「SSH研究ⅠⅡⅢ」や「SSH情報」など、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており、評価できる。
- ・資質・能力のルーブリック、「ポスター・報告書の作成基準表」「課題研究ポスターのフォーマット」「アドバイスシート」「研究計画のための条件整理」「Advice for students」「英語発表資料作成及び英語プレゼンのポイント」「英語ポスター作成で留意すべきこと」等の特色ある教材を積極的に開発し、毎年指導の工夫や改善を重ねながら課題研究の充実に取り組んでおり、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・メンター制の導入、データの統計処理に関する数学と理科の教員の連携、大学教員・留学生による講義や指導を受けられるようにするなど、研究のねらいに即した指導体制となっており評価できる。
- ・「探究ミーティング」の実施やSSH指定校視察、外部発表会への参加等を通じて教員の指導力向上に取り組んでおり、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・佐賀大学と連携して理工学部と農学部の研究室で講義・演習を実施したり、大学教員や企業の研究者による講義を行ったりするなど、先進的な理数系教育に取り組んでおり評価できる。高大接続の改善に資する取組については、九州大学のグローバルサイエンスキャンパスへの参加奨励に留まっているように見受けられるため、今後も更に積極的な取組が望まれる。
- ・現地の大学と連携した海外研修を実施したり、佐賀大学教員・留学生T Aの協力を得て、課題研究における英語指導に取り組んだりするなど、国際性を高める取組を積極的に行っており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・SSH研究部や課題研究開発ワーキングチームの教員を中心にした会議等を通じて、学校内における研究成果や情報の共有が図られており、評価できる。今後は校内における成果の「継承」に資する取組も更に工夫して行っていくことが望まれる。
- ・課題研究発表会や教員研修会の開催、「致遠館SSH通信」の配布、学校ホームページに研究開発した教材等を掲載するなど、研究成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。今後も更に積極的に、中学校・高等学校が連動したSSHモデルを発信していくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員の加配措置やループリックを活用した評価の専門家による指導助言を実施する等、当該指定校への適切な支援を行っており評価できる。また、県主催の教育課程研究集会で指定校による事例報告を行い、県内の教員に探究活動の重要性を理解してもらえよう取り組んでおり評価できる。
- ・県として指定校に求める役割や位置付けを明確化し、引き続き積極的に支援していくとともに、県内外への成果の普及・発信により一層努めていくことが望まれる。

熊本県立天草高等学校（管理機関：熊本県教育委員会）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・「SSH研究部」を設置し、校務分掌や教科ごとに役割を明確化して研究計画を推進・管理しており評価できる。また、課題研究アドバイザーや授業改革プロジェクトリーダーを配置して、全校体制の下、指導の充実や授業改善が進むよう工夫している点も評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・1学年全員を対象にした「天草サイエンスⅠ」での学びをベースとし、2学年ではASクラスを対象に「天草サイエンスⅡ」で地域貢献を目指した課題研究を積極的に行っている。今後はより一層、生徒の自発的・主体的なテーマ設定を活かした取組になることを期待したい。ASクラスの選択者を更に増やしていくことも期待される。
- ・課題研究ルーブリックを活用した評価、ASにおけるアンケートによる自己評価、校内発表会評価票を用いた生徒相互評価、論文評価票を用いた教師評価など、様々な場面に応じた評価手法を積極的に開発・実践しており、評価できる。
- ・探究的な学習の力をつけるための事例集テキストを作成し、1年生の研究テーマ設定時に配布しているほか、「数科学探究Ⅰ」の教材など、特色ある教材等を積極的に開発し、ホームページで公開している点は評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「天草サイエンスⅠ」の指導は1学年担当の全職員で行うとともに、クラスを解体して興味関心のあるテーマごとにグループ研究を実施している。また、遠隔通信システムを活用して、長崎大学水産学部の教員から指導助言を受けることができるようにするなど、外部人材の活用を図っており評価できる。
- ・学校で重視している「指導4観点」に関するグループ協議、探究をテーマとした授

業づくりに関する職員研修、先進校視察等、教員の指導力向上のための取組を実施しており評価できる。今後も更に工夫した組織的な取組が望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「天草サイエンスⅠ」で実施する天草学連続講義を、天草市役所や地元企業、研究所等と連携しながら毎年実施できるネットワークを構築している。また、地域の高校3校が連携して、ポスターセッション中間発表会やプレゼンテーション講習会を共同で実施するなど、他校との連携を深めており評価できる。
- ・科学部が天草の自然環境を活かした様々な研究活動に取り組み、世界大会への出場を果たすなど優れた成果をあげている点は評価できる。部員増加と更なる活性化に向け、引き続き生徒の活動を積極的に支援していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「天草サイエンスⅡ」と「天草サイエンスⅢ」を同時時間帯に実施することで、継続研究や生徒間の助言指導ができる環境を整えるなど、工夫が見られ評価できる。教員間の研究成果の共有や指導ノウハウ等の継承が図られるような、組織的な取組の工夫も望まれる。
- ・学校ホームページのメニューを工夫し、積極的に研究成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。また、天草ケーブルテレビと連携して、研究成果発表会の全ての発表や特集番組を地域に向けて放送するなど、情報発信方法を工夫しており評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・KSH（熊本スーパーハイスクール）推進事業の実施や理系ALTの配置、設備整備費の重点配分、県内SSH校担当者会の実施、合同研究発表会の開催などを通じて指定校を支援しており、評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、特色に応じた適切な支援を引き続き行っていくことが望まれる。
- ・熊本県教育委員会のホームページでKSH及びSSH指定校を紹介しているほか、県内の研修会等で指定校の研究成果に関する情報を発信しており、評価できる。

熊本県立第二高等学校（管理機関：熊本県教育委員会）【4期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・SSH部と授業開発部が中心となって研究開発を展開し、全教員が探究型授業に取り組むことを目標とするなど、学校全体として研究計画を推進する体制となっており、大変評価できる。
- ・生徒・保護者アンケート、二高ICEモデルを活用した評価、卒業生追跡調査等で生徒の変容や成果をきめ細かく分析しているほか、成果が定量的なデータで示されており、大変評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理数科で実施してきた探究活動の成果を生かし、4期目は美術科、普通科でも課題研究に取り組む教科「探究」を設定するなど、見直しや改善を図りながら理数系教育に重点を置いた教育カリキュラムを構築しており、評価できる。
- ・二高ICEモデルによる評価手法を確立し、探究活動における生徒の資質・能力の成長の可視化に取り組んでいる。各教科・科目の授業でもこのモデルを応用して指導と評価の一体化を図るなど、意欲的な取組が展開されており、評価できる。
- ・開発した「見せどころ設計マニュアル」をもとに、各教員が「授業改善のための工夫の見せどころシート」を作成し、探究型授業を学校全体で実践している点は評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・9割以上の教員が課題研究の指導に関わるなど、全校的な指導体制となっており、評価できる。
- ・週時程に組み込まれた教科会でのICE・ID研修会の日常的な実施、年4回の拡大研修会（二高ism）の実施、全職員と県内外の教育関係者が参加する授業研究会の開催、他校視察など、教員の指導力向上に向けた取組を組織的かつ積極的に実施

しており評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理数科に加え美術科や普通科においても、大学・企業・研究機関等と連携して先進的な理数系教育や探究活動に取り組んでおり、評価できる。今後は崇城大学と連携して、高大接続の改善に資する研究を発展させていく予定であり、成果が期待される。
- ・物理、化学、生物、地学の4つの科学系部活動は、多くの生徒が積極的に理数系コンテスト等に参加するなど充実した活動状況であり、評価できる。更に高いレベルでの活動も視野に入れ、今後も生徒の意欲や主体性を高めていくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・3学科が協働した成果発表会の開催、学校ホームページの充実と開発した教材等の公開、各メディアを通じた情報発信、熊本県スーパーハイスクール指定校合同研究発表会等の主管校として他校を牽引するなど、積極的に研究成果の発信・普及に取り組んでおり、評価できる。研究開発実施報告書も大変分かりやすく整理されており、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・KSH（熊本スーパーハイスクール）推進事業の実施や理系ALITの配置、設備整備費の重点配分、県内SSH校担当者会の実施、合同研究発表会の開催などを通じて指定校を支援しており、評価できる。県として各指定校に求める役割や位置付けを明確化し、特色に応じた適切な支援を引き続き行っていくことが望まれる。
- ・熊本県教育委員会のホームページでKSH及びSSH指定校を紹介しているほか、県内の研修会等で指定校の研究成果に関する情報を発信しており、評価できる。熊本県立第二高校が4期にわたって培ってきた成果をどのように県全体に広げていくのか、戦略の更なる具体化が望まれる。

大分県立佐伯鶴城高等学校（管理機関：大分県教育委員会）【1期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・学校設定教科「創生探究」の開発及び実施、校外研修活動や高大連携の取組、佐伯市と連携した幼・小・中・高13年間をつなぐ探究型カリキュラム「ふるさと創生プラン」の開発など、いずれも計画通り進捗しており評価できる。
- ・SSH推進委員会、SSH推進部会、学年会、教科会議等においてしっかりと進捗状況を確認しながら組織的に事業を推進・管理しており、評価できる。
- ・アンケート調査で生徒意識の変容を継続的に分析し、その結果を基に指導内容の改善を図る等、成果と課題の分析・検証、改善に適切に取り組んでおり評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校設定教科「創生探究」は数学、理科、情報、英語の教科横断的なカリキュラム編成となっている。前年度の反省を生かして「創生探究A」「創生探究B」の指導内容を精選・見直す等、改善を図りながら実施しており評価できる。今後は課題研究の質を更に向上させていくことが望まれる。
- ・学校設定教科「創生探究」ではルーブリックを活用した観点別評価に取り組んでおり、引き続き改善しながらの継続的な実施と成果が期待される。
- ・年度ごとに授業改善の重点目標を立て、ICTを活用した授業や探究的な学習を取り入れた授業を積極的に実施している。生徒授業アンケートによって授業改善成果を確認しながら取り組んでおり評価できる。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善についても今後期待される。
- ・ミニ探究で活用したワークシートや、探究的な学習を取り入れた授業の学習指導案などの一部を学校ホームページに掲載している。今後も更に特色あるオリジナル教材等の開発が進むことを期待したい。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一

部改善を要する】

- ・探究活動では理科の教員と他教科の教員が連携した指導や少人数グループ研究を実施するなど、研究のねらいに即した指導体制を工夫しており評価できる。
- ・教員の負担感にも配慮しながら、外部人材をTAとして活用するなど、指導体制の更なる充実に向けた工夫が望まれる。
- ・全教員対象にSSH職員研修を実施し、職員研修(P)→互見授業公開(D)→生徒による授業アンケート(C)→再実践(A)のPDCAサイクルの流れを各年度に2回ずつ実施している。SSH先進校への視察等も行っており、教員の指導力向上に向けた取組を組織的かつ丁寧に行っており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・地域の商工会議所等の協力を得て「地元産業連携推進協議会」を発足し、地元産業と連携した課題研究やジョブシャドウイングを実施している。また、大分県立大分舞鶴高等学校のSSH重点校で実施している「OSSコンソ」にコア校として参加する等、地域や他のSSH指定校等と連携した取組を積極的に行っており評価できる。
- ・科学部の部員数は年々増加し、科学チャレンジ等への参加も増えてきているように見受けられる。今後はよりハイレベルな大会にも挑戦していくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・作成した教材、ループブック、学習指導案等を学校内ネットワークで共有している。
- ・中学生や中学校教員も参観可能な研究成果発表会の開催、研究授業の公開、小中学生対象の科学実験教室の実施等により研究成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。全国に向けた普及・発信に更に積極的に取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・「県立高等学校授業改善実施要領」を策定して、PDCAサイクルによる授業改善を推進している。また、チーム大分で科学技術系人材を育成するため「大分スーパーサイエンスコンソーシアム」を組織したり、「小中高数学・理科授業研究会」を実施したりするなどしており、評価できる。
- ・県のホームページでSSH指定校の活動を紹介・普及し、今後は「理数探究実践講座」を県主催で開催するなど、課題研究や探究活動のノウハウを全県に普及させていく予定である。今後の成果に期待したい。

鹿児島県立錦江湾高等学校（管理機関：鹿児島県教育委員会）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・校長のリーダーシップの下、教員の働き方改革の観点にも留意しながら校務の無駄を省き、SSH部の9つの係で全職員が業務を機能的に分担する体制を構築している。毎週時間割の中に設定されている企画会とSSH担当者会で、組織的に事業の企画や進捗管理、成果分析及び改善に取り組んでおり、評価できる。
- ・現状はアンケートを中心とした評価方法となっているが、生徒や教員の変容等の分析をより客観的に行うための工夫が望まれる。また、ループリックを用いた評価の結果についてもまとめていくことが期待される。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・理数科及び普通科において、課題研究を3年間系統的に位置付け、理数系教育に重点を置いた教科・科目編成となっており評価できる。
- ・課題研究と各教科との連携を図るためのリテラシー講座の実施や、理科・数学以外の授業においても探究的な学びを取り入れるなど、授業改善に積極的に取り組んでおり評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されており、特に程度が高い】

- ・ファシリテーターを複数配置したり、課題研究の際の生徒のグループ編成を工夫したりするなど、全校体制の課題研究がスムーズに進むよう考えられた指導体制となっており、大変評価できる。
- ・全職員で課題研究の指導のノウハウを共有するため、職員研修や先進校視察等に積極的に取り組んでおり、大変評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 大学や研究機関、企業と連携し、先進的な理数系教育に取り組んでおり、評価できる。
- ・ 県内のSSH指定校4校と連絡協議会を設置して連携を深めるとともに、県外SSH指定校や県内他校も含めた課題研究発表会を企画する等、地域や他のSSH指定校等と連携した取組を積極的に行っており、評価できる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 教員間の継承を意識した人事配置、生徒の探究活動に関する先輩・後輩の交流を促す等、研究成果の共有・継承について工夫が見られ、評価できる。
- ・ 生徒の変容や学校改革の視点で普及すべき研究成果をまとめた上で、学校ホームページでの情報発信や研究発表等に積極的に取り組んでおり、評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・ 指導力の高い教員の配置、理系ALTの配置などの人事上の配慮、大学や総合教育センターへの協力依頼、県内SSH指定校の連携や研究発表会開催等に係る支援などを行っており、評価できる。課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、今後も適切に学校を支援していくことが望まれる。

池田中学・高等学校（管理機関：学校法人池田学園）【3期3年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 理事長・校長、教頭、高校教務、中学教務、SSH主任、課題研究主担当者、SSH事務が参加する企画部会を週時程に位置付けて毎週開催し、各事業の進捗状況把握や見直し等を行っていることは評価できる。
- ・ 成果と課題の分析・検証について、評価の観点がり系志望率、理系進学率、理系に対する関心意欲についてのみのように見受けられるため、生徒の資質・能力(主体性、協働性、多様性、創造性等の育成という視点)についても適切に評価していくことが望まれる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 小学校1年生から高校3年生までの全ての単元においてSSHとの関連付けを整理した年間学習計画を作成し、通常の教科・科目の授業においても課題研究とのつながりを意識して、論理的思考力・創造力・探究心等の育成に取り組んでおり、評価できる。
- ・ 京都情報大学院大学と連携し、ICEループリックを用いた評価を実施している。課題研究で育成を目指す資質・能力との関係性を明確にして進めていくことが望まれる。
- ・ オリジナル科学英語テキストの作成を目指している。3期目の学校としてこれまでの成果を生かして、他校でも活用できる効果的な教材等の開発が更に望まれる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・ 課題研究や探究的な学習活動の指導に小中高の全職員が関わるとともに、外国人講師とのティームティーチングの実施等、研究のねらいに即した指導体制を工夫して

おり評価できる。

- ・アクティブ・ラーニングの基礎理論や実践に関する研修、ICEループリックを活用した評価方法等についての研修を行っている点は評価できる。教員の指導力向上を図るための取組を更に工夫して積極的に実施していくことが望まれる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・学校設定科目「グローバルサイエンスⅠ・Ⅱ」で大学や企業との連携を図り、外部講師による講義やフィールドワーク等を通じて先進的な理数系教育を実施している。単発の講義等に留まらない連携の仕組みを今後も更に発展させていくことが望まれる。
- ・英語教育による語学力の強化、海外研修や国際科学技術コンテストへの参加など、積極的に国際性を高める取組を実施しており評価できる。今後は海外との交流に関わる生徒の数を更に増やしていくことが期待される。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・高校1年生～3年生の生徒が同じ班に属して課題研究を実施することで、研究成果の継承を図っている。指導ノウハウ等も含め、教員間における研究成果のより積極的な共有・継承の仕組みづくりが望まれる。
- ・サイエンスフェスタ等での研究成果の発信、他校からの研修受け入れなど、研究成果の普及・発信に取り組んでおり評価できる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・理科・数学の教員の増員、国際科学コンテストの開催等により支援しており、評価できる。国際科学コンテストについては、今後も更に参加者や協力者を増やして、発展させていくことが期待される。